

平成18(2006)年度

鳥取市内遺跡発掘調査概要報告書

岩吉遺跡
布勢遺跡
山宮茶山畠遺跡
青谷鑑畠本陣跡
奥崎坂ノ谷出土地
沢見塚古墳
上光所在遺跡
松原所在遺跡
服部墳墓群
青谷上寺地遺跡

2007

鳥取市教育委員会

序 文

この報告書は、開発事業に伴い、国庫補助金及び県補助金を受けて、平成18年度に実施した鳥取市内遺跡の試掘調査記録です。

鳥取市は平成16年11月に周辺8町村（国府町、福部村、河原町、用瀬町、佐治村、気高町、鹿野町、青谷町）と合併し、人口約20万人を擁する山陰地方最大の都市になりました。鳥取市内の平野部をはじめ、丘陵上には数多くの遺跡が存在しています。これらの文化財は地域の先人たちの生活を語る歴史資料であり、後世に継承していかなければならない市民の貴重な財産です。

近年は、社会の進展に伴って、各種開発事業が計画・実施され、さらに増加する傾向にあります。文化財保護を推し進めている私共といたしましては、こうした開発と文化財の共存を図るべく諸関係機関と協議を重ね、円滑に文化財行政を進めているところです。

この調査にあたっては、鳥取県教育委員会事務局文化課、鳥取県埋蔵文化財センターをはじめ、関係各位の格別なご指導・ご協力を仰ぎながら、土地所有者や作業員の方々の熱意により、ようやく調査を終了することができました。ここに深く感謝を申し上げる次第であります。

なお、この報告書は不十分な所も多くありますが、私たちの郷土理解に役立てていただくとともに、今後の調査研究の一助となれば幸いです。

平成19年3月

鳥取市教育委員会

教育長 中川俊隆

例　　言

1. 本書は、平成18年度に国・県の補助金を得て、鳥取市教育委員会が実施した発掘調査報告書である。
2. 調査を実施した遺跡等は、岩吉遺跡、布勢遺跡、山宮茶山畠遺跡、青谷鎧畠本陣跡、奥崎坂ノ谷出土地、沢見塚古墳、上光所在遺跡、松原所在遺跡、服部墳墓群、青谷上寺地遺跡である。
3. 本書における遺構図のすべては磁北を示し、レベルは基本的に海拔標高であるが、一部に任意のものがある。
4. 発掘調査によって作成された記録類および出土遺物は鳥取市教育委員会に保管されている。
5. 青谷上寺地遺跡の植物珪酸体分析については株式会社古環境研究所に依頼した。
6. 発掘調査から本書の作成にあたっては、多くの方々から指導・助言ならびに協力をいただいた。厚く感謝いたします。
7. 発掘調査の体制は以下のとおりである。

発掘調査主体　　鳥取市教育委員会

事務局　　鳥取市教育委員会文化財課

調査担当　　前田 均、山田真宏、谷口恭子、平川 誠、加川 崇、坂田邦彦

本 文 目 次

序文・例言

第1章	はじめ	1
	I. 発掘調査の契機と目的	1
	II. 発掘調査の経過	1
第2章	調査の結果	3
	I. 岩吉遺跡	3
	II. 布勢遺跡	6
	III. 山宮茶山遺跡	9
	IV. 青谷鉢塚本陣跡	10
	V. 奥崎坂ノ谷出土地	11
	VI. 沢見塚古墳	15
	VII. 上光所在遺跡	17
	VIII. 松原所在遺跡	19
	IX. 服部墳墓群	20
	X. 青谷上寺地遺跡	24

第3章 付 紙

写真図版

報告書抄録

挿 図 目 次

第1図	調査地位置図	2
第2図	岩吉遺跡 トレーンチ配置図	3
第3図	岩吉遺跡 第1トレーンチ実測図	4
第4図	岩吉遺跡 第2トレーンチ実測図	4
第5図	岩吉遺跡 第1トレーンチ出土上遺物実測図	5
第6図	布勢遺跡 トレーンチ配置図	6
第7図	布勢遺跡 第1トレーンチ実測図	7
第8図	布勢遺跡 第1トレーンチ出土遺物実測図	7
第9図	布勢遺跡 第2トレーンチ実測図	8
第10図	布勢遺跡 第2トレーンチ出土遺物実測図	8
第11図	山宮茶山遺跡 トレーンチ配置図	9
第12図	山宮茶山遺跡 第1トレーンチ実測図	10
第13図	青谷鉢塚本陣跡 トレーンチ配置図	10
第14図	青谷鉢塚本陣跡 第1トレーンチ実測図	11
第15図	奥崎坂ノ谷出土地 トレーンチ配置図	11
第16図	奥崎坂ノ谷出土地 第1トレーンチ実測図	12
第17図	奥崎坂ノ谷出土地 第1トレーンチ出土遺物実測図	12
第18図	沢見塚古墳 墓丘測量図	13, 14
第19図	沢見塚古墳 トレーンチ配置図	15
第20図	沢見塚古墳 第1・第2・第3トレーンチ実測図	16
第21図	上光所在遺跡 トレーンチ配置図	17
第22図	上光所在遺跡 第1トレーンチ及び遺構断面実測図	18
第23図	松原所在遺跡 トレーンチ配置図	19
第24図	松原所在遺跡 第1トレーンチ実測図	20
第25図	服部墳墓群 トレーンチ配置図	20
第26図	服部墳墓群 第1トレーンチ実測図	22
第27図	服部墳墓群 第1トレーンチ出土遺物実測図	22
第28図	服部墳墓群 第2・第3・第4・第5・第6トレーンチ実測図	23
第29図	青谷上寺地遺跡 第1トレーンチ配置図	24
第30図	青谷上寺地遺跡 第1トレーンチ実測図	25
第31図	青谷上寺地遺跡 第1トレーンチ出土遺物実測図	26
第32図	青谷上寺地遺跡 植物珪酸体分析結果	28

表 目 次

表1	青谷上寺地遺跡 植物珪酸体分析結果	28
----	-------------------	----

図 版 目 次

- | | |
|---|--|
| <p>図版 1</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 岩吉遺跡 調査地(Tr-1)近景(西から) 2. 岩吉遺跡 第1トレント掘下状況(北から) 3. 岩吉遺跡 第1トレント掘下状況2(西から) 4. 岩吉遺跡 第1トレント南壁断面(北から) 5. 岩吉遺跡 第1トレント東壁断面(西から) 6. 岩吉遺跡 第1トレントSK-01断面(南から) 7. 岩吉遺跡 第1トレントSK-02断面(北から) 8. 岩吉遺跡 第1トレントSK-01完掘状況
(北から) <p>図版 2</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 岩吉遺跡 第1トレントP-01断面(西から) 2. 岩吉遺跡 第1トレントP-01完掘状況
(西から) <p>図版 3</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 岩吉遺跡 第1トレント出土遺物(1) 2. 岩吉遺跡 第1トレント出土遺物(2) 3. 岩吉遺跡 調査地(Tr-2)近景(北北東から) 4. 岩吉遺跡 第2トレント南壁断面(北から) 5. 布勢遺跡 調査地遠景(北東から) 6. 布勢遺跡 第1トレント掘下状況1(南から) 7. 布勢遺跡 第1トレントSK-01完掘状況
(南東から) <p>図版 4</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 布勢遺跡 第1トレント掘下状況2(南から) 2. 布勢遺跡 第1トレント掘下状況2(北から) 3. 布勢遺跡 第1トレント北壁断面(南から) 4. 布勢遺跡 第1トレント東壁断面(北北西から) 5. 布勢遺跡 第2トレント掘下状況(南東から) 6. 布勢遺跡 第2トレント掘下状況(北東から) 7. 布勢遺跡 第2トレント南壁断面(北東から) 8. 布勢遺跡 第2トレントSK-02完掘状況
(東から) <p>図版 5</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 布勢遺跡 第1トレント出土遺物 2. 布勢遺跡 第2トレント出土遺物(1) <p>図版 6</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 布勢遺跡 第2トレント出土遺物(2) 2. 山宮茶山畑遺跡 調査地遠景(北から) 3. 山宮茶山畑遺跡 第1トレント掘下状況
(南から) 4. 山宮茶山畑遺跡 第1トレント東壁断面
(西から) 5. 山宮茶山畑遺跡 第1トレント南壁断面
(北から) 6. 青谷籠畑木陣跡 調査地遠景(南から) 7. 青谷籠畑木陣跡 第1トレント掘下状況
(北から) <p>図版 7</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 青谷籠畑木陣跡 第1トレント北壁断面
(南から) 2. 奥崎坂ノ谷出土地 調査地遠景(北東から) 3. 奥崎坂ノ谷出土地 第1トレント掘下状況
(北西から) 4. 奥崎坂ノ谷出土地 第1トレント東壁断面
(南西から) 5. 奥崎坂ノ谷出土地 第1トレント南東壁断面
(北から) 6. 奥崎坂ノ谷出土地 第1トレント出土遺物 7. 沢見塚古墳 調査地遠景(北西から) 8. 沢見塚古墳 墳丘全景(南から) <p>図版 8</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 沢見塚古墳 墳丘全景(北から) 2. 沢見塚古墳 第1トレント掘下状況
(北北西から) 3. 沢見塚古墳 第1トレント北東壁断面
(東から) 4. 沢見塚古墳 第1トレント北西壁断面
(東北から) 5. 沢見塚古墳 第2トレント北壁断面
(南東から) 6. 沢見塚古墳 第2トレント北東壁断面
(西北西から) 7. 沢見塚古墳 第2トレント北西壁断面
(西北から) 8. 沢見塚古墳 第3トレント掘下状況(西から) | <p>図版 9</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 沢見塚古墳 第3トレント北壁断面(南西から) 2. 上光所在遺跡 調査地遠景(北北東から) 3. 上光所在遺跡 第1トレント掘下状況(北から) 4. 上光所在遺跡 第1トレント北壁断面(南から) 5. 松原所在遺跡 調査地遠景(南から) 6. 松原所在遺跡 第1トレント掘下状況
(北西から) <p>図版 10</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 腹部壇墓群 第1トレント掘下状況(南から) 2. 腹部壇墓群 第1トレント南壁断面(北側) 3. 腹部壇墓群 第1トレント北東側拵張部壇下状況(東から) 4. 腹部壇墓群 第1トレント北東側拵張部北壁断面(南から) 5. 腹部壇墓群 第1トレント北東側拵張部東壁断面(西から) 6. 腹部壇墓群 第1トレント北東側拵張部遺物出土状況(南から) 7. 腹部壇墓群 第1トレント北西側拵張部西壁断面(東から) 8. 腹部壇墓群 第2トレント掘下状況(南から) <p>図版 11</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 腹部壇墓群 第2トレント東壁断面
(北側)(南西から) 2. 腹部壇墓群 第3トレント掘下状況(北から) 3. 腹部壇墓群 第3トレント東壁断面(北西から) 4. 腹部壇墓群 第4トレント掘下状況(北から) 5. 腹部壇墓群 第4トレント西壁断面
(東北東から) 6. 腹部壇墓群 第4トレント南壁断面(北から) 7. 腹部壇墓群 第5トレント掘下状況(北から) 8. 腹部壇墓群 第5トレント南壁断面(北から) <p>図版 12</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 腹部壇墓群 第5トレント西壁断面(北東から) 2. 腹部壇墓群 第6トレント東壁断面(北西から) 3. 腹部壇墓群 第6トレント掘下状況
(北北西から) 4. 腹部壇墓群 第1トレント出土遺物 5. 青谷上寺地道跡 第1トレント掘下状況
(北から) <p>図版 13</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 青谷上寺地道跡 第1トレント擬似畦畔検出状況(南西から) 2. 青谷上寺地道跡 第1トレント遺物出土状況
(東から) 3. 青谷上寺地道跡 第1トレント出土遺物
(東から) |
|---|--|

第1章 はじめに

鳥取市は鳥取県東部に位置する山陰の中核都市で、県庁所在地として政治・経済・文化の中心的な役割を担ってきた。平成16（2004）年11月には周辺8町村（国府町、福部村、河原町、用瀬町、佐治村、気高町、鹿野町、青谷町）との市町村合併が成立し、面積765.66km²、人口20万人余りを擁する都市へと拡大することとなった。

このことは、それまで市内に2300ヶ所余りとしてきた遺跡の数にも反映され、現在その数は倍増の4600ヶ所以上となりさらに増加の一途をたどっている。このような背景の中、近年は各種開発事業は落ち着き傾向にあるが、最近は再開発や新規の開発計画も認められるようになり、それらとの調整が必要となる遺跡も数多く存在する。

I. 発掘調査の契機と目的

今回報告する発掘調査の契機はそれぞれ以下のとおりである。

岩吉遺跡は、マンション建設およびごみ焼却施設建設計画。布勢遺跡は、宅地開発計画。山宮茶山畑遺跡・青谷鉢煙本陣跡・奥崎坂ノ谷出土地・上光所在遺跡は、携帯電話基地局新設計画。気高町沢見塚古墳は、予防治山事業計画。松原所在遺跡は、県道拡幅事業計画。服部墳墓群は、姫路鳥取線整備事業。青谷上寺地遺跡は、統合小学校建設計画である。

また以上の計画に対しての今回の発掘調査の目的は、それぞれの開発計画との円滑な調整を図るために資料、すなわち遺跡の範囲、構造・遺物の有無と埋蔵状況、遺跡の性格等の資料を得ることである。

なお報告は別になるが、他に城跡整備計画に伴う鳥取城跡と農業基盤整備事業計画に伴う青谷町大坪イカウ松遺跡および青谷町大坪大縄手遺跡においても本年度事業として発掘調査を実施している。

II. 発掘調査の経過

発掘調査は各調査地ともトレントンチによる構造・遺物の包含状況の確認に主眼をおいて実施し、調査後は基本的に埋め戻しを行っている。整理作業・報告書作成作業は、現地調査時に着手し、平成19年3月に終了した。本報告の調査面積は369.4m²である。なお調査経過は以下のとおりである。

岩吉遺跡は、平成18年4月17日～19日と4月24日～28日に2ヶ所のトレントンチ調査を実施。調査面積は54m²である。第1トレントンチから奈良・平安時代および古墳時代の2時期の構造・遺物を検出した。布勢遺跡は、5月8日～24日に2ヶ所のトレントンチ調査を実施。調査面積は26.9m²である。二次堆積の可能性もある中・近世の遺物包含層と、近世まで下る可能性のある土坑、溝状構造、ピット状構造を検出した。山宮茶山畑遺跡は、5月25日～30日に1ヶ所のトレントンチ調査を実施。調査面積は24m²である。構造・遺物は検出されなかった。青谷鉢煙本陣跡は、5月30日～6月1日に1ヶ所のトレントンチ調査を実施。調査面積は25m²である。陣跡他の遺跡を明瞭に示す構造・遺物はともに認められなかった。奥崎坂ノ谷出土地は、6月13日～16日に1ヶ所のトレントンチ調査を実施。調査面積は24m²である。遺跡を明瞭に示す構造・遺物はともに認められなかった。沢見塚古墳は、6月26日～7月13日に3ヶ所のトレントンチ調査と墳丘測量を実施。トレントンチ調査面積は9.5m²で、墳丘測量面積は808.6m²である。部分的ながら、墳丘の確認と同一部の喪失を確認した。また現況での墳丘規模も約29mであることを再確認した。上光所在遺跡は、7月25日～8月1日に1ヶ所のトレントンチ調査を実施。調査面積は25m²である。近・現代のものと考えられる溝状構造とピット状構造を検出した。松原所在遺跡は、10月13日に1ヶ所のトレントンチ調査を実施。調査面積は8.8m²である。遺跡を明瞭に示す構造・遺物はともに認められなかった。

服部墳墓群は、11月6日～22日に6ヶ所のトレントンチ調査を実施。調査面積は51.2m²である。古墳等の遺跡を明瞭に示す構造は検出されず、遺物は主に第1トレントンチから古墳時代後期の蓋杯・甕の破片等が検出された。青谷上寺地遺跡は、6月26日～8月22日に1ヶ所のトレントンチ調査を実施。調査面積は121.0m²である。

第1図 調査地位置図



第2章 調査の結果

1. 岩吉遺跡

1. 遺跡の位置と環境〔第1図〕

岩吉遺跡は、JR湖山駅の東約0.5km、千代川によって形成された沖積平野である鳥取平野の左岸側平野部のほぼ中央に所在し、南北約1.2km、東西約0.8km程度の範囲に広がる遺跡である。治水の進展で千代川の支流・野坂川の氾濫から開放されたこの地域は、かつてはのどかな田園地帯であったが近年は道路整備と合わせて、郊外化店舗の新設や会社ビルの造成、宅地等への再開発と大きく変貌を遂げている。歴史的には、千代川左岸平野部の中央部を南北に伸びる微高地に弥生時代から古墳時代にかけての集落が形成され、その周辺に水田が営まれたと考えられている。さらに律令期には周辺に条里が引かれ、平安期には官的な施設も遺跡内に形成されていたと考えられている。

2. 調査の概要〔第2図〕

今回の発掘調査はマンション建設計画およびごみ焼却施設建設計画に伴って実施したものである。鳥取市湖山町地内のそれぞれの予定地のうち、前者の現況は標高4.4m程度の会社建物およびトラック駐車スペースで、約300m南では古墳時代から平安時代の造構や多量の遺物が平成7(1995)年度の発掘調査で検出されている。また後者は、標高3.6m程度の元工場用地で、約100m南西では弥生時代から古墳時代の多量の造構・遺物が昭和63(1988)～平成2(1990)年度の発掘調査で検出されている。このため計画地内での造構・遺物の確認に主眼をおいてそれぞれ1ヶ所ずつのトレーンチを設定した。

① 第1トレーンチ (Tr-1) [第3・5図、図版1～3]

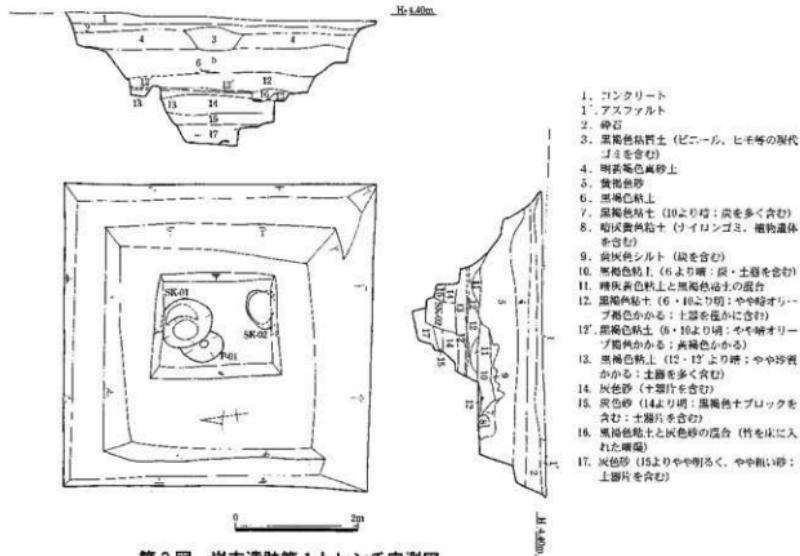
開発予定地の東側に設定した5×5mのトレーンチである。現地表面下約1.2mは奈良・平安時代の遺物を含む客土層で、その下の旧耕作土と見られる第11・12層と、第13層が奈良・平安時代の遺物包含層である。さらにその下の現地表面下約1.5mの第14・15・17層が古墳時代の遺物包含層である。

造構は、第14層上面から上坑2基(SK-01, 02)とピット状造構1基(P-01)を検出した。時期は、出土遺物から、SK-01とP-01は奈良・平安時代、SK-02は古墳時代前期と考えられる。

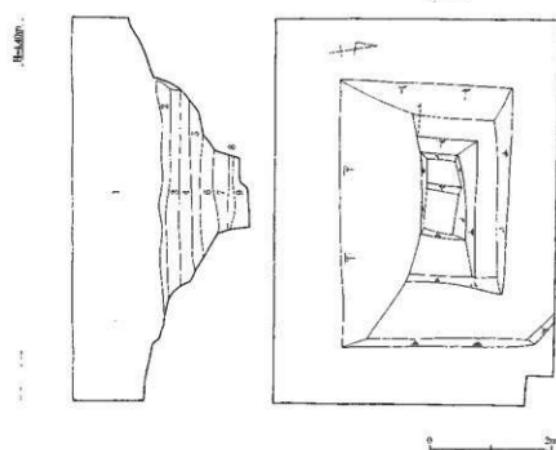
遺物は、第13層から甕口縁部(10)、盤の脚部(11)、須恵器の蓋(13)と杯身(14)が、第14・15・17層から壺(1, 3, 5)、甕(2)、高杯(6, 7)、鼓形器台(8)、低脚杯(9)、製塩土器(12)が出土している。

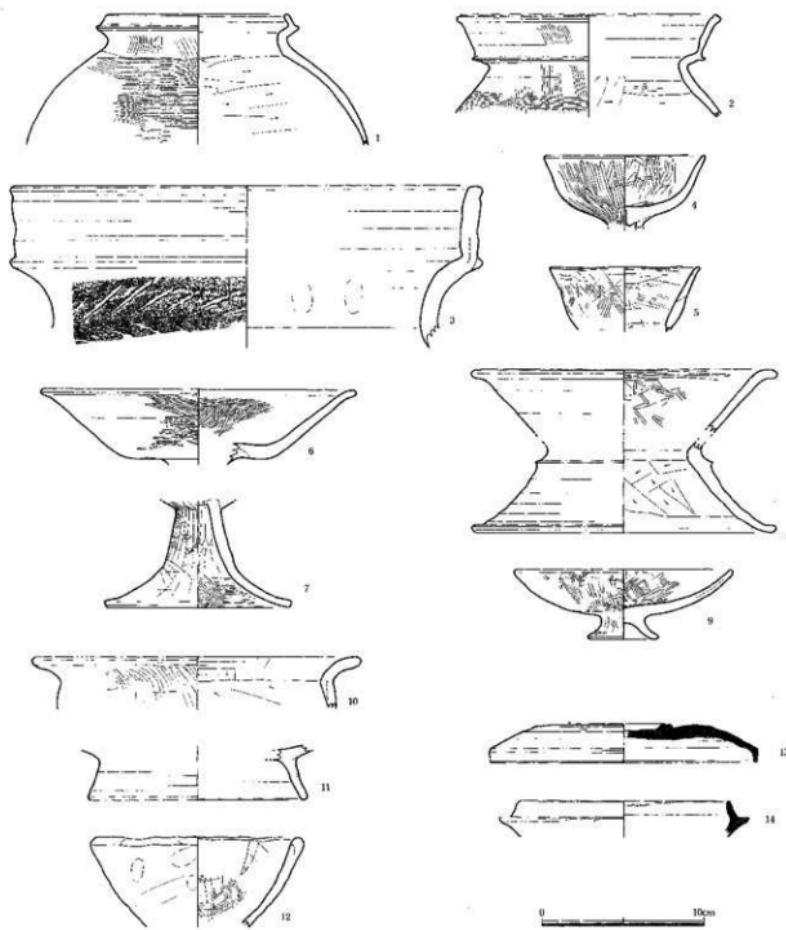


第2図 岩吉遺跡トレーンチ配置図



1. 壱上 (砂)
2. 暗灰褐色粘土
3. 黑灰色粘土質土 (4より明; 植物遺体及び
ナイロンゴミを含む)
4. 浅灰色粘土質土 (3より暗; 黑褐色土ブ
ロックを含む; ナイロンゴミを含む)
5. 浅灰色粘土質土 (暗灰色粘質土ブロック
含む)
6. 次黄褐色粘土
7. 暗黃褐色細砂シルト (マンガン分佈帶)
8. 暗灰褐色粘土 (9よりやや明; 炭化物
を含む)
9. 暗灰褐色粘土 (7)上~黒褐色粘土 (7).上 (8よ
りやや暗)





第5図 岩吉遺跡第1トレンチ出土遺物実測図

② 第2トレンチ (Tr-2) [第4図、図版3]

開発予定地の中央付近に設定した $6.3 \times 4.65m$ のトレンチである。現地表面下約1.4~1.5mは前工場用地期の整地層(1層)で、その下約50cm程度の第2~4層が旧耕作土と考えられる。遺構はこの旧耕作土と見られる第4層直下から溝状遺構の可能性が考えられる層序変化(第5層)を検出したが、旧耕作土と類似の灰黄色系のブロックが認められ、現代の可能性が考えられる。

遺物は第5層から上師器表細片が僅かに1点検出された。

3. 小結

対象地のうち、前者では標高3.1m付近で2時期の遺構が存在することが確認された。また後者では明瞭な遺構、遺物ともに検出されなかった。

II. 布勢遺跡

1. 遺跡の位置と環境〔第1図〕

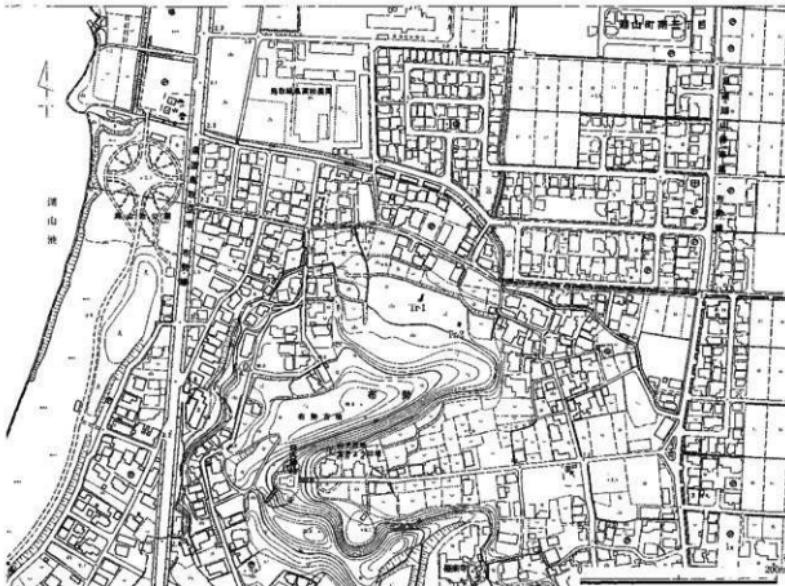
布勢遺跡は、鳥取市布勢地内、JR湖山駅の南西約1.2kmで鳥取平野の西端に形成された潟湖である湖山池に面して位置する標高28m程度の独立丘陵の北側裾付近に所在する。この湖山池周辺には、縄文時代前期から弥生時代、古墳時代、古代、中・近世の遺跡が多く形成されており、対象地も国史跡である前方後円墳の布勢古墳の北側裾に隣接して、また中世から戦国期の城館遺跡である天神山遺跡の南に近接して位置する。

2. 調査の概要〔第6図〕

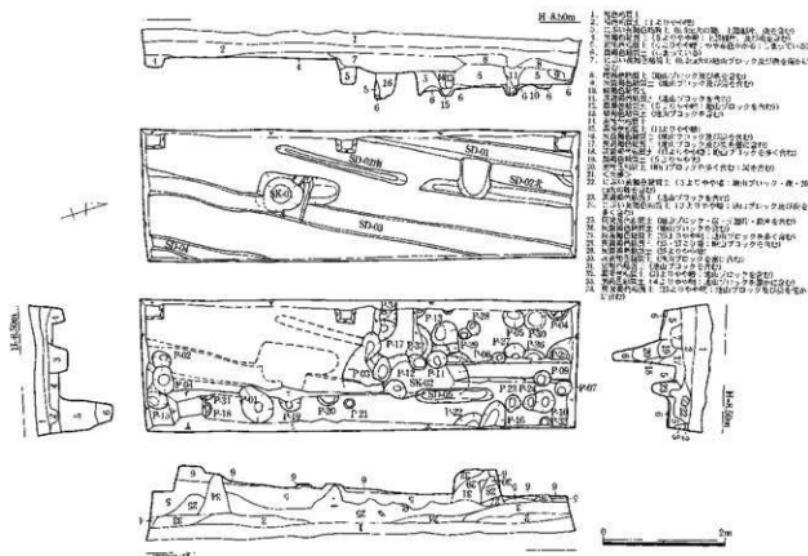
今回の発掘調査は宅地開発計画に伴って実施したものである。予定地は、以前の畠地が耕作の停止によって竹林の拡大や荒地化の進行をゆるしておらず、表面観察は困難であった。ただその周辺の畠地では須恵器や土師器等の土器の散布が確認されるほか、遺跡の所在する丘陵の北側には古絵図から戦国期の遺構存在の可能性も考えられた。しかしながらこれまで具体的な調査は実施されていなかったため、今回の調査は遺構・遺物の確認に主眼をおいて行うこととし、2ヶ所のトレンチを設定した。

① 第1トレンチ (Tr-1) [第7・8図、図版3・4・5]

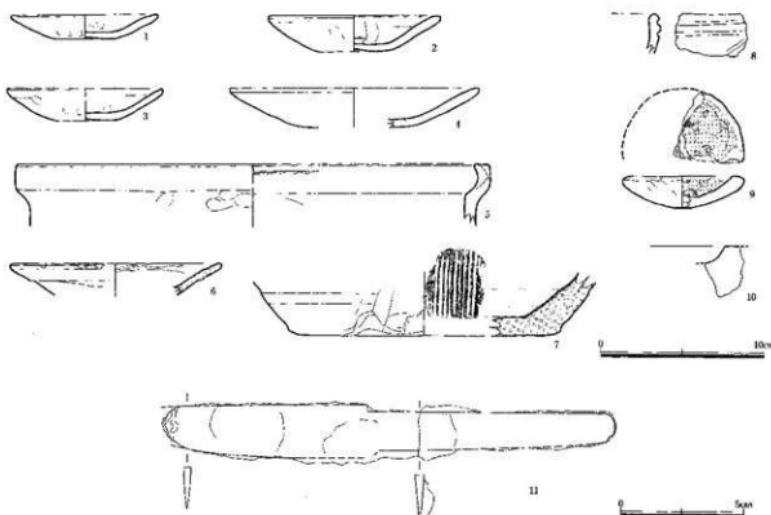
開発予定地の中央付近、旧畠地に設定した7.1×2.1mのトレンチである。地表面下0.3~0.4mの第4・8層上面から溝状遺構4条 (SD-01~04) とそのうちのSD-03に切られる形で土坑1基 (SK-01) を検出した。溝状遺構埋土には現代ガラス片等が混じり、SK-01からは土師器・須恵器・陶磁器および焼土と甕?等の破片が検出された。その下の第4層 (地表面下0.2~0.6m) と第5層 (地表面下0.15~0.6m) が遺物包含層で、土師器 (上師皿、甕、土錐ほか/第8図-1、2、4)・須恵器(高杯ほか)・陶器 (擂鉢ほか/7)・磁器片・瓦質土器 (土鍋/5)・縄文土器片 (8)・石製品 (臼?/10) が検出された。時期は中世から近世にかけてと見られる。



第6図 布勢遺跡トレンチ配置図



第7図 布勢遺跡第1トレンチ実測図



第8図 布勢遺跡第1トレンチ出土遺物実測図

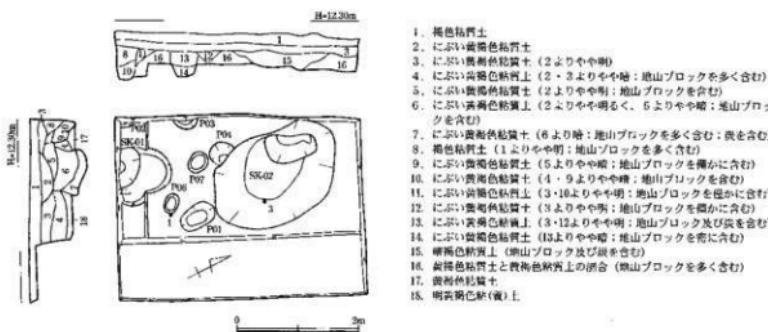
遺構は上述のほかに、第5層上面から土坑1基(SK-02)、ピット状遺構31基(P-01~07、09~32)、溝状遺構1条(SD-05)を検出した。このうちSK-02からは、土師器(土師皿・高杯)・須恵器片・陶器片・瓦質土器(土鍋)・鉄器片・坩堝片(第8図-9)が、またピット状遺構のうちP-01(土師皿/3)、03、06、07、11、13、14、15、16、17(陶器片/6)、22、25、30からは土師器・須恵器・瓦質土器・陶器・磁器・鉄器の断片が出土した。時期は下位の包含層出土遺物から、近世にまで下る可能性が考えられる。なお調査地内には搅乱と見られる層序の変化も多く認められ、そのうちの第25層からは陶器片等のほか、小刀(第8図-11)が出土している。

② 第2トレンチ(Tr-2) [第9・10図、図版4~6]

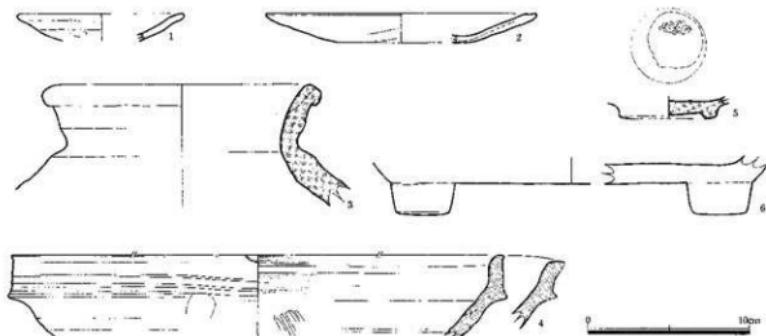
開発予定地の南東端付近に設定した4×3mのトレンチである。地表面下0.2m程度の表土下面から旧耕作土と考えられる畝状の層序の変化を検出したほか、地表面下0.25~0.3mの第3層下面から土坑2基(SK-01、02)、ピット状遺構7基(P-01~07)を検出した。遺物はSK-02から土師皿(第10図-2)、陶器口縁部(3)・高台部(5)が、P-06外縁部から土師皿(1)、遺物包含層の第16層から土師器底部(6)、陶器擂鉢(4)が出土している。時期は中世から近世にかけてと見られる。

3. 小 結

対象地内に設定した2ヶ所のトレンチからは断続はあるものの、中世・近世を中心として繩文時代か



第9図 布勢遺跡第2トレンチ実測図



第10図 布勢遺跡第2トレンチ出土遺物実測図

ら現代に至る遺物が検出された。しかしながら、層序の観察から遺物包含層が二次堆積の可能性も考えられるほか、遺物の時期から造構も近世にまで下る可能性が考えられる。

III. 山宮茶山畠遺跡

1. 遺跡の位置と環境（第1図）

山宮茶山畠遺跡は、鳥取市西部の山宮町山宮に所在し、JR浜村駅の南南西約3kmに位置する。周辺は鷲峰山に水源をもつ河内川の流路変更によって河岸段丘が形成された逢坂谷と呼ばれる河谷平野で、その段丘面上に多くの遺跡が形成されている。上原南遺跡、上原遺跡、上原西遺跡、山宮阿弥陀森遺跡、山宮茶山畠遺跡、山宮笹尾遺跡、三王尻遺跡、睦達遺跡、会下郡家遺跡がそれに当たり、これまでの発掘調査等によって縄文時代から弥生時代・古墳時代の遺構、遺物が検出されている。歴史時代に入ると、奈良・平安時代には氣多郡衙が形成され、多数の大型掘立柱建物跡が検出された上原遺跡がこれに比定されている。中世では、上原南遺跡、山宮阿弥陀森遺跡、会下郡家遺跡から掘立柱建物跡や井戸、土塙墓等が検出され、戦国期には山城が築かれている。

2. 調査の概要（第11図）

今回の発掘調査は携帯電源基地局新設設計に伴って実施したものである。気高町山宮字山王の予定地は標高37m程度の河岸段丘上の休耕地であるが、対象範囲が狭小のため造構・遺物の確認に主眼をおいて1ヶ所のトレンチを設定した。

① 第1トレンチ（Tr-1）（第12図、図版6）

開発予定地の施設計画地に設定した6×4mのトレンチである。厚さ0.2~0.3mの耕作土（黒ボク層）下は0.1~0.2m程度のにぶい黄褐色粘質土（第2層）が堆積し、その下は黄褐色ロームの地山面となる。

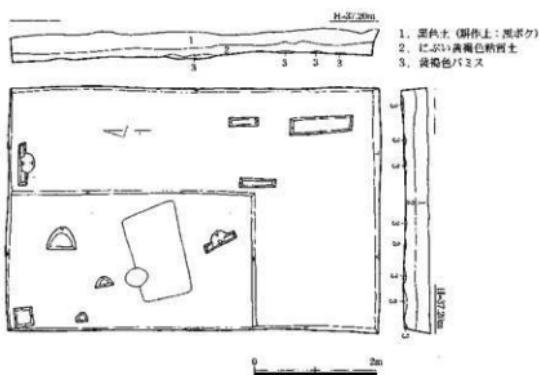
調査の結果、第2層上面から動物骨埋納穴とそれを切る形で肥料穴状の痕跡を認めたが、いずれも現代のものと判断された。また同面から平面的に不定形な土層の変化を認めたが、サブトレンチ調査の結果、根跡や上位層のしみこみと判断された。そのほかには造構・遺物ともに検出されなかった。

3. 小 結

対象地は従来の遺跡分布図では山宮茶山畠遺跡の北限付近と考えられるが、今回の調査では造構・遺



第11図 山宮茶山畠遺跡トレンチ配置図



第12図 山宮茶山畠遺跡第1トレンチ実測図

物とともに検出されなかった。しかしながら、調査範囲が狭小であるため、遺跡の北限については今後とも注意が必要である。

IV. 青谷鐵畠本陣跡

1. 遺跡の位置と環境【第1図】

青谷鐵畠本陣跡は鳥取市の西の玄関口、旧青谷町青谷に所在し、JR青谷駅の北北西約600m、勝部川河口西側の通称「丸山」と称する独立丘陵上に位置する。旧青谷町にはその大半を古墳が占めるものの約480ヶ所の遺跡が知られており、そのうち本遺跡周辺では、県立青谷高等学校新築時のボーリングにより地表面下6.3mから縄文土器、弥生土器、須恵器が出土したことでの遺構・遺物が検出され、中でも遺跡の中心となる弥生時代の大規模な遺構、良質の大量の遺物に圧倒される青谷上寺地遺跡が知られている。

2. 調査の概要【第13図】

今回の発掘調査は携帯電話基地局新設計画に伴って実施したものである。青谷町青谷字丸山の予定地は標高40.7m程度の独立丘陵上の休耕地であるが、対象範囲が狭小のため遺構・遺物の確認に主眼において1ヶ所のトレンチを設定した。



第13図 青谷鐵畠本陣跡トレンチ配置図

① 第1トレンチ(Tr-1)

〔第14図、図版6・7〕

開発予定地の施設計画地に設定した $5 \times 5\text{ m}$ のトレンチである。調査地は砂地であるがオープン掘削調査のため壁面崩落に考慮して緩い勾配と段振りを併用して掘り下げた。

調査の結果、地表面下約 2.4 m 付近まで同一のきめの細かい灰白色砂層が続き、遺構は検出されなかった。また遺物は、地表面付近から陶器の細片1点が検出されたのみである。

3. 小 結

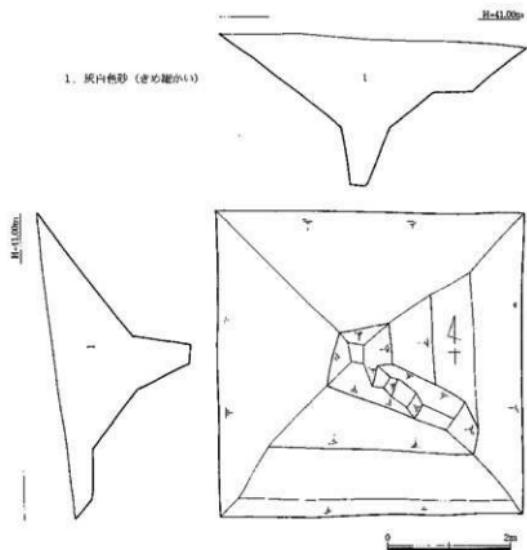
本遺跡は、天正9年(1581)に羽柴秀吉が鳥取城攻めを終えた頃、東進して羽衣石城を攻めようとした吉川元長に対して同城救援のため西進した秀吉軍が青谷の丸山に布陣した一夜陣とし

て、寛政7年(1795)の安部恭庵著『因幡誌』に伝えられたものである。それによると、山巒から麓まで段々に切り開き一畝づつ四角に畦を作ったあるものの、調査地内からはそれを明瞭に示すものは確認できなかった。

V. 奥崎坂ノ谷出土地

1. 調査地の位置と環境〔第15図〕

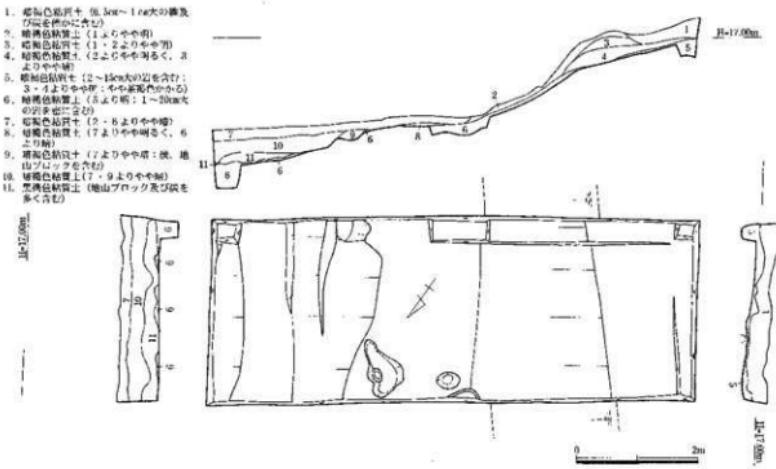
調査対象地は、鳥取市青谷町奥崎字坂ノ谷に所在し、JR青谷駅の南東約 2.2 km で奥崎集落の南端部、日置川によって形成された谷平野に東面した中国山地から北に延びる丘陵の東側斜面に位置する。周辺



第14図 青谷鎧畠本陣跡第1トレンチ実測図



第15図 奥崎坂ノ谷出土地トレンチ配置図



第16図 奥崎坂ノ谷出土地第1トレンチ実測図

には先述の青谷上寺地遺跡が所作するほか、弥生時代から古墳時代の堅穴住居等が検出された大川第1・第2遺跡、弥生時代から奈良時代にかけての住居跡や古墳が確認されたカヤマ遺跡も存在する。また丘陵上には多くの古墳群が造営され、善田古墳群や市史跡指定の奥崎古墳群、大坪古墳群、大口古墳群、牛牛古墳群等が知られている。さらに近年の調査で奈良時代の多くの木製祭祀具等が検出された善田傍示ヶ嶺遺跡も所在する。

2. 調査の概要（第15図）

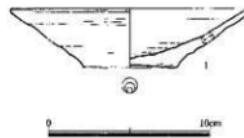
今回の発掘調査は携帯電話基地局新設計画に伴って実施したものである。予定地は標高17m程度の丘陵斜面上の二段に渡る段々の畑地であるが、周辺には上述のとおり奥崎古墳群や大坪古墳群が立地し、表面観察では土器断片が認められた。しかしながら対象範囲が狭小のため遺構・遺物の確認に主眼をおいて丘陵斜面に並行の南西から北東方向の1ヶ所のトレンチを設定した。

① 第1トレンチ (Tr-1) [第16・17図、図版7]

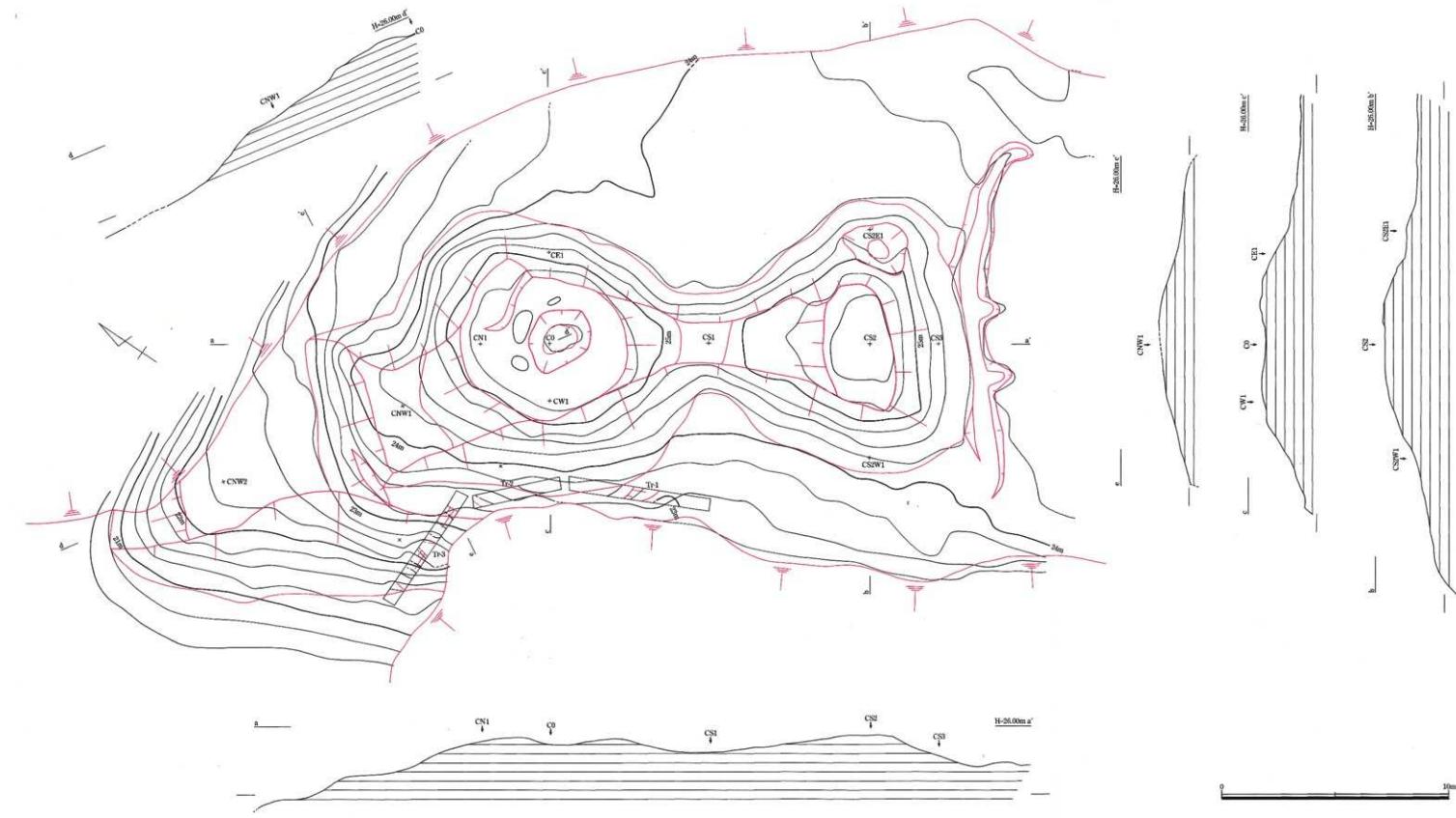
開発予定地の施設計画地に設定した8×3mのトレンチである。調査の結果、断面観察からは丘陵斜面の高位側を部分的に削平してその削平残土を低位側に盛土することで現在の下段の畑の平坦面を確保していることが認められる。この盛土の第10・11層が遺物包含層で、底部に糸切り痕を有する土師器皿（第17図）が検出された。遺構としては、下段畑の地山面から3ヶ所の浅い掘り込みを検出したが、埋土から、耕作土中からのものと見られる。また下段畑の北東側で地山をカットした可能性が考えられる傾斜の変換が認められたがそのほかに明瞭な遺構は認められず、調査地が狭小のため積極的に遺構と判断するには至らなかった。

3. 小結

上述の結果、調査範囲内においては明瞭な遺構は認められず、遺物も二次堆積によるものと考えられる。しかしながら遺物の出土状況は、現況からは他地域からの混入とは考え難く、周辺の開発には注意が必要である。



第17図 奥崎坂ノ谷出土地第1トレンチ出土遺物実測図



第18図 沢見塚古墳墳丘測量図 (S = 1:160)

VI. 沢見塚古墳

1. 遺跡の位置と環境〔第1図〕

鳥取市指定文化財沢見塚古墳は、山陰高町と旧鳥取市との境界付近、JR宝木駅の東北東約1.4kmの鳥取市山陰高町奥沢見字長丁に所在し、西側の潟湖である水尻池に突き出した標高25m程度の低丘陵上に位置する。現状では、この低丘陵の南西側裾部には民家が迫って形成されている。

周辺には現在のところ古い時期の遺跡は知られていないが、丘陵上に水尻古墳群、宝木古墳群、下光元古墳群、上光古墳群、小沢見古墳群等が、また丘陵斜面に奥沢見横穴群が営まれている。歴史時代では奈良・平安時代の官衙遺跡として「島遺跡」、馬場遺跡が知られ、中世には小沢見と水尻の境で日本海に突き出した丘陵上に大崎城が認められる。

2. 調査の概要〔第18・19図〕

今回の調査は予防治山事業に伴って実施したものである。墳丘の立地する低丘陵の南西側は各所で崩落が発生し、今後もその拡大の危険があることからこれまで治山事業が行われてきているが、現況の観察では墳丘の一部も既に崩落している可能性が考えられた。このため、事業にかかる範囲内において占墳の墳裾、墳形を考える資料を得るために上眼をおいてトレントレーンチ3本(Tr-1～3)を設定し、後にTr-3を拡張した。また古墳の規模・墳形を確認するため、墳丘の下草刈りを行った後あわせて墳丘測量を実施した。

① 第1トレントレーンチ(Tr-1)〔第20図、図版8〕

双方中円墳とされる墳丘の中央円形部から南東側方形部へのくびれ部にかけて、事業範囲内を考慮しながら南西側墳裾部に墳丘上軸および既崩落部にほぼ並行して設定した6.25×0.6mのトレントレーンチである。現地表面下0.2mで、墳裾埋土と考えられる上層(第8・9層)を確認するとともに、狭小ながら、トレントレーンチの中央部を南東から北西に走る墳裾と見られる傾斜の変換を確認した。なお遺物は第9層中から須恵器片1点を検出した。



第19図 沢見塚古墳トレントレーンチ配置図

② 第2トレンチ (Tr-2) [第20図、図版8]

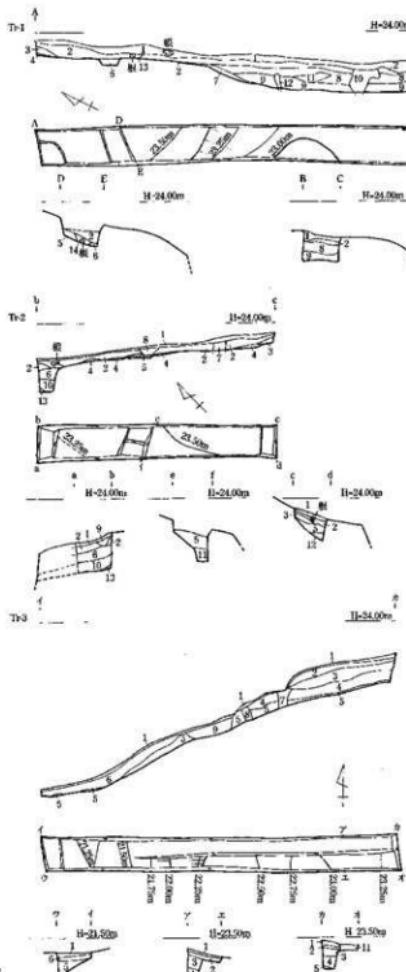
第1トレンチの北西隣、墳丘の中央円形部の南西側墳裾部に、主軸をやや西に振りながら既崩落部にほぼ並行して設定した3.95×0.6mのトレンチである。現地表面下0.3mで、トレンチ北西端部から墳裾埋土と見られる第10層を確認した。トレンチ中央部および南東端部ではこの層は確認できなかったが、トレンチにはほぼ並行する既崩落部の断面観察ではトレンチの北西部から中央付近まで第10層と見られる黒褐色粘質土層が認められる。なお遺物は、表土中から須恵器片1点が検出された。

③ 第3トレンチ (Tr-3) [第20図、図版8・9]

第2トレンチの西隣、墳丘中央円形部と北西側方形部の接点付近から丘陵斜面にやや斜めながら既崩

1. 表土
2. 黒色粘質土
3. 楊色粘質土 (2より明)
4. 楊色粘質土 (2よりやや暗)
5. にぶい赤褐色粘質土
6. 褐褐色粘質土
7. 楊色粘質土 (2よりやや明)
8. 黑褐色粘質土 (2よりやや明く、3よりや暗)
9. 黑褐色粘質土
10. 楊褐色粘質土 (しまってない: 木根地)
11. 楊褐色粘質土 (しまってない: 木根地)
12. 楊褐色粘質土 (しまってない: 木根地)
13. 楊褐色粘質土 (しまってない: 木根地)
14. にぶい赤褐色粘質土 (2よりやや暗)

1. 表土
2. 楊色粘質土
3. 黑褐色粘質土 (2より明)
4. 細色粘質土 (2よりやや明く、3より暗)
5. 黑褐色粘質土 (4よりやや明)
6. 黑褐色粘質土 (2よりやや暗)
7. 楊褐色粘質土 (しまってない: 木根地)
8. 黑褐色粘質土 (しまってない)
9. 細色粘質土 (しまってない)
10. 黑褐色粘質土
11. 黑褐色粘質土 (5よりやや暗: 12と同様)
12. 楊色粘質土 (3よりやや暗: 11と同様)
13. 黑褐色粘質土 (11、12と同様だが、それより赤みかからない)



第20図 沢見塚古墳第1・第2・第3トレンチ実測図

落部にはほぼ並行して設定した5.85×0.6mのトレンチである。当初第2トレンチからはやや離れた位置に設定したが、層序確認のためトレンチを東側に延長した。調査の結果、現地表面下0.3mでトレンチ東半部から墳壠埋土と見られる第3・4層を確認したが、事業範囲外となるため墳壠の傾斜の変換点の確認は出来なかった。なお遺物は検出されなかった。

④ 墳丘測量〔第18図、図版7・8〕

測量の結果、現況での全長は約29.0mを測り、双方中円墳あるいは前方後円墳の後円部に方形の造り出し部が設けられたものといった形状を呈する。主軸は一直線上ではなく、南東側方形部から中央円形部のラインに対して中央円形部から北西側方形部のラインは23°程東に振る。それぞれの計測値は、南東側方形部で主軸長約12.5m、端部裾幅約12m、高さ約1.3mである。中央円形部は、直径約14.5m、高さ1.75～2.0mで、北西側方形部は、主軸長約4.9m、端部推定裾幅約8.0m、高さ約1.5mである。中央円形部の中央には盜掘穴と見られる落ち込み1ヶ所が認められ、東側裾部もやや歪となる。また南東側方形部の北東側墳丘斜面にも落ち込み1ヶ所が認められる。なお測量前の清掃時に、中央円形部の北東側墳丘斜面表土中から須恵器片2点が表探された。

3. 小 結

3ヶ所のトレンチ調査と地形測量の結果、現況での規模が再確認された。また、墳丘の南西側墳壠の一部が既に崩落により喪失していることが確認されるとともに、部分的ではあるが墳壠の確認がなされた。なお古墳の時期については、中央円形部の高さと南東側方形部の高さ（標高約25.5m）、また直径と同方形部端部推定復元幅（15～16m程度）がそれぞれ類似する点と、出土須恵器片から、これまで考えられてきた古墳時代後期（6世紀後半）頃としておきたい。

VII. 上光所在遺跡

1. 調査地の位置と環境〔第1図〕

調査対象地は、鳥取市気高町上光字高野庵に所在し、JR宝木駅の南南西約3.7km、標高143m強を測る独立丘陵北裾端部付近に位置する。周辺には、前述のとおり丘陵上に多くの古墳が造営され、また平野部には律令期の官衙関連造構を中心とした遺跡である戸島遺跡、馬場遺跡が形成されている。

2. 調査の概要〔第21図〕

今回の発掘調査は携帯電話基地局新設計画に伴って実施したものである。予定地は標高20m程度の丘陵裾部の畑地であるが、対象範囲が狭小のため遺構・遺物の確認に注眼をおいて1ヶ所のトレンチを設定した。



第21図 上光所在遺跡トレンチ配置図

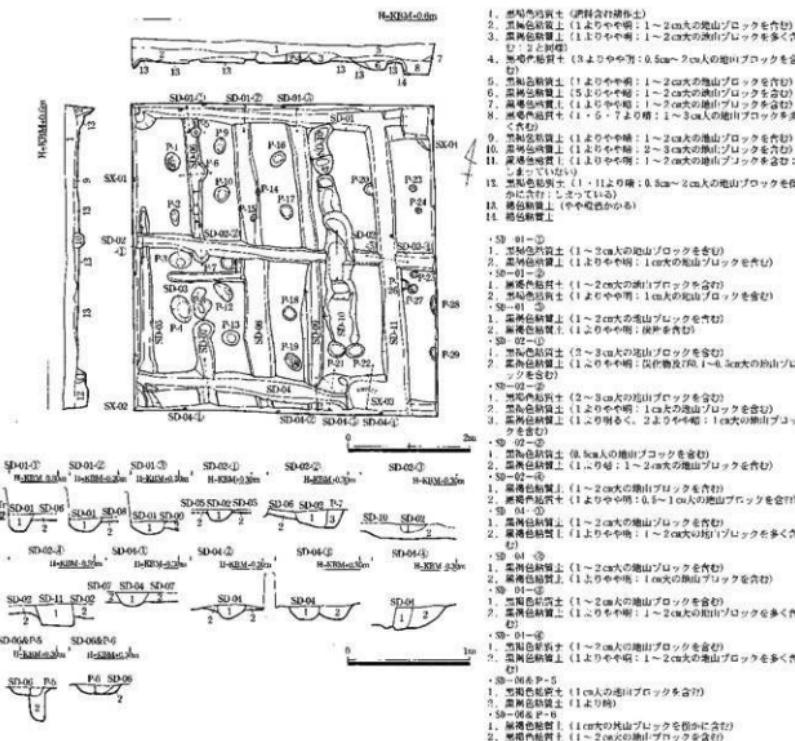
① 第1トレンチ (Tr-1) [第22図、図版9]

開発予定地の施設計画地に設定した5×5mのトレンチである。厚さ20cm程度の耕作土下は地山となり、その上面から溝状遺構11条 (SD-01~11)、ピット状遺構29基 (P-1~29)、不明遺構4基 (SX-01~04) を検出した。これらの遺構のうち溝状遺構は、東西と南北方向にそれぞれほぼ並行して錯綜し、断面および平面観察によると南北方向の溝状遺構 (SD-05~10) をSD-03を除く東西方向の溝状遺構 (SD-1、2、4) が切る形で掘り込まれ、さらにそれらをSD-11が切る形で掘り込まれている。また検出したピット状遺構のうちP-1~4、9~13、16~19は、ほぼ等間隔で南北方向に走るSD-05~09の間に挟まれた平坦部に比較的間隔を意識しながら並ぶ傾向が見られる。埋土は明・暗・包含ブロック等に若干の違いはあるものの、いずれも耕作土と同様の土質である。

なお遺物はSD-11、SD-11とSD-04の切り合ひ付近の埋土中から陶磁器の細片2点が検出されたほか、トレンチ周辺の表探も含めた耕作土中から上師器・須恵器・瓦質土器・陶磁器・鉄器の細片がそれぞれ少量ずつ検出されている。

3. 小 緒

これらの遺構の検出状況や遺物の出土状況から、検出遺構は近・現代の耕作等に伴うものと考えられる。



第22図 上光所在遺跡第1トレンチ及び遺構断面実測図

VII. 松原所在遺跡

1. 調査地の位置と環境〔第1図〕

調査対象地は、鳥取市松原地内に所在し、鳥取平野の西に形成された潟湖である湖山池南岸、JR鳥取駅から西へ約8.3kmの主要地方道鳥取施野舟吉線に隣接して位置する。この湖山池南岸周辺には、前述のとおり縄文時代前期から弥生時代、古墳時代、古代、中・近世の遺跡が多く形成されており、調査地の南約300mには弥生時代から中世の集落遺跡である松原谷田遺跡が所在し、南東側丘陵上には松原古墳群が造営されている。

2. 調査の概要〔第23図〕

今回の発掘調査は県道の拡幅事業計画に伴って実施したものである。標高約2.2mの対象地は、もともとは標高0.6m程度の低地を埋め立てて宅地および農場用地化されており、建物の移転等を待つて調査を実施した。調査は遺構・遺物の確認に着眼をおいて1ヶ所のトレンチを設定した。

① 第1トレンチ(Tr-1)〔第24図、図版9〕

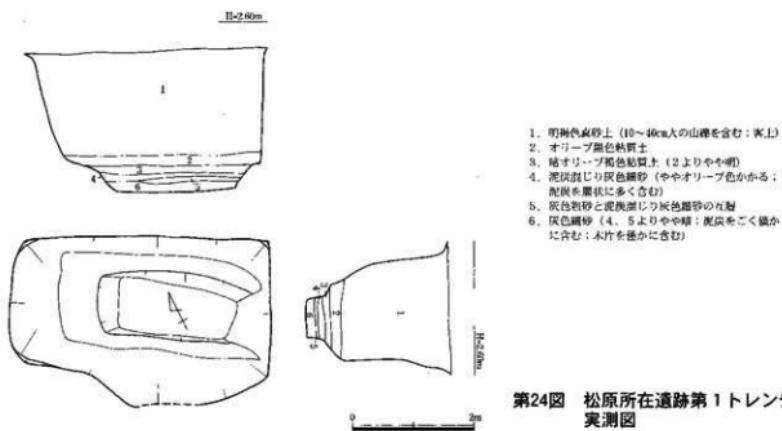
道路拡幅予定地内に設定した4×2.2mのトレンチである。現地表面下1.8mまで客土で、その下の標高0.4m以下にオリーブ系の粘質土(第2・3層)、砂層(第4~6層)と続く。調査地内からは遺構は検出されなかった。また遺物は、標高0m付近以下の第6層の上位から薄板状の加工木材片が検出されたが、遺構に伴うものではなく二次堆積遺物と考えられる。

3. 小結

調査対象地は湖山池岸に近く、旧地形は湖岸の低湿地と考えられるが、狭小な範囲での調査とはいえ遺構の検出はなく、遺物も二次的な堆積によるものと考えられることから、調査地に遺跡の所住する可能性は低いものと考えられる。



第23図 松原所在遺跡トレンチ配置図



第24図 松原所在遺跡第1トレンチ
実測図

IX. 服部墳墓群

1. 遺跡の位置と環境〔第1図〕

服部墳墓群は千代川左岸の鳥取平野南西部に位置し、服部集落から西側約500mの丘陵上に立地している。丘陵は最高位標高80mあまりから東側に延びる独立丘陵で、墳墓群はこの稜上及び丘陵の裾部に展開している。

墳墓群は古墳42基、墳墓3基から構成されている。丘陵の最高位には全長31mあまりの前方後円墳が



第25図 服部墳墓群トレンチ配置図

位置し、西側に延びる稜線上に直径8~16mの円墳や一辺14m前後の方墳が連続的に築かれ、丘陵先端上に弥生墳墓が所在している。また、丘陵の西裾部には横穴式石室を持つ円墳が6基確認されており、弥生時代後期から古墳時代前期、中期、後期と各期の古墳、墳墓からなる墳墓群であることが明らかにならってきている。墳墓群の発掘調査は、姫路鳥取線整備事業に伴い平成11、12年度にわたって実施され、服部16~19号墳、34・36号墳、服部1~3号墳を検出した。

周辺遺跡には、鈴山、下味野等の古墳群や服部遺跡、木高円ノ前遺跡等の集落遺跡がある。木高円ノ前遺跡は、平成14年度に発掘調査が行われ、平安時代~鎌倉時代の掘立柱建物や、縄文時代晩期の尖底甕などが出土している。

2. 調査の概要

今回の試掘調査は姫路鳥取線整備事業に伴い実施したものである。調査対象地の現状は山林となっており、丘陵斜面一帯には段状の平坦部がみられ、一時期には畑耕作が行われていた様子がうかがわれる。試掘トレンチの設定は、墳墓群が展開する丘陵南側斜面及び谷部と、主稜線から派生した支稜上を行い、谷部に第1トレンチ(Tr-1)、南斜面に第2~5トレンチ(Tr-2~5)、支稜上に第6トレンチ(Tr-6)を設けた。谷部に設定した第1トレンチの箇所は地名に「鍾錠」の字名が見られるところから鍾錠の铸造に係る遺跡の可能性があることから設定したものである。調査の結果、遺構は検出されなかつた。

① 第1トレンチ(Tr-1) [第26・27図、図版10]

谷部に形成された段状部からテラス部にかけて設定した1.4×8.4m、1.9×3.0m(東拡張区)、1.5×2.9m(西拡張区)のトレンチである。表土は厚さ20~35cmを測る。表土下層には褐色のシルト系の土層(第2、3層)が見られ、第3層下層の黒褐色シルト(第4層)が旧表土と思われる。第4層下層の褐色粘質土(第5、10、11、12層)はよくしまっており基盤層とみられる。遺構は検出されなかつた。

遺物は、第3、4、8層から土師器(甕)、須恵器(蓋杯、甕)、石斧が出土した。土器はいずれも細片で大半が東拡張区からの出土である。第27図1、2は東拡張区第3層から出土した。1は須恵器小甕で口縁から肩部の1/6が残存し、口径7.2cmを測る。胎土は0.5mm前後の砂粒が多く含む。色調は灰色を呈し、外面に自然釉がかかる。2は土師器甕の口縁部である。1/16が残存し、胎土は0.5mm前後の砂粒を多く含み、色調は灰褐色。口縁部内外面ヨコナデ調整である。3は東拡張区第4層上面から検出された。一部を欠き、残存長さ11.7cm、幅6.4cm、暑さ4.75cmを測る。敲打痕が認められ転用されたものと思われる。

② 第2トレンチ(Tr-2) [第28図、図版10・11]

主稜線から南に突き出した支稜上に形成された段状部に設定した1.0×7.0mのトレンチである。地表下85cmで確認された第14層が旧表土とみられ、第15層が地山である。第14層の上位に見られる第2~13層は畑造成時の客土と思われる。

遺構、遺物は検出されなかつた。

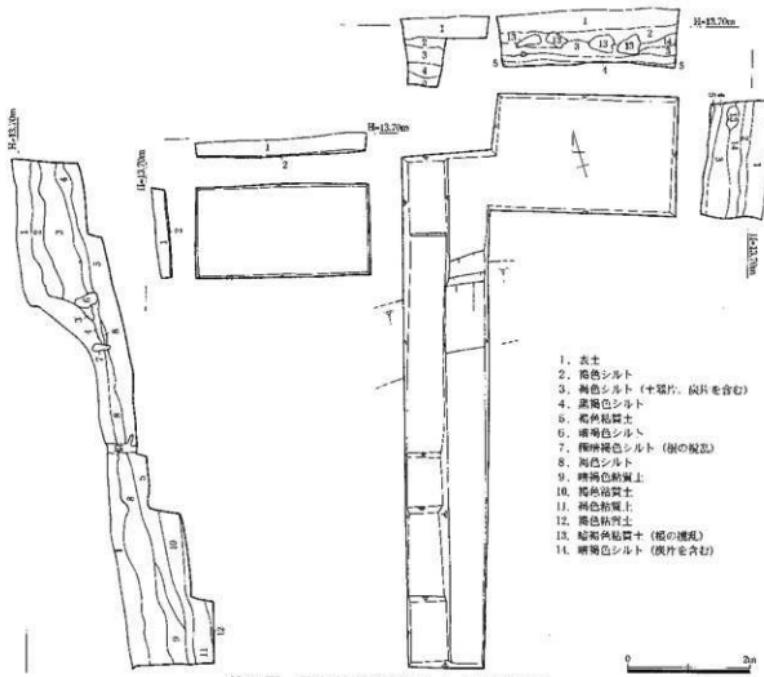
③ 第3トレンチ(Tr-3) [第28図、図版11]

斜面中腹に見られる緩斜面傾斜に設定した1.0×5.6mのトレンチで、第1トレンチの北西側上位に当たる。地表下25~40cmで検出した第3層が地山である。地山上層の第2、5層は斜面の傾斜に沿って堆積しており自然堆積の様子が見られる。遺構、遺物は検出されなかつた。

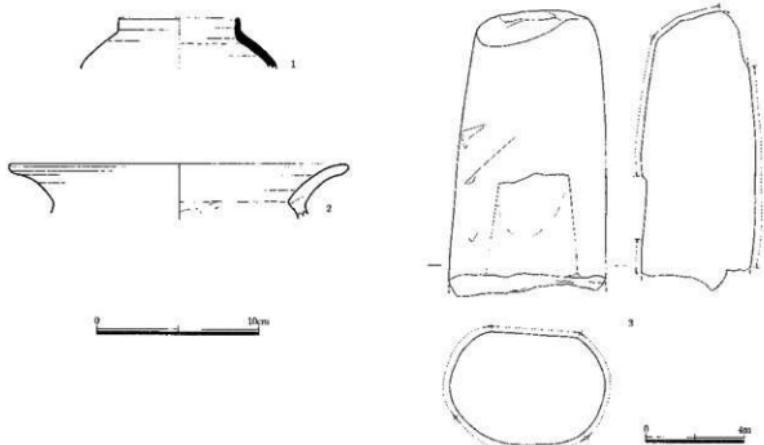
④ 第4トレンチ(Tr-4) [第28図、図版11]

第1トレンチ上位の斜面中腹に形成された平坦部に設定した1.5×5.0mのトレンチである。第1トレンチの北東側上位に当たる。地表下20~85cm以下で検出した褐色粘質土の第6、7層が基盤層と考えられる。第6層の上層には暗褐色粘質土や暗褐色粘質土が混入する褐色土が見られ、客土された様子をうかがうことができる。畑造成に伴うものとみられる。

トレンチほぼ中央の第6層上面から直径30cm、深さ6cmあまりの窪みを検出し岡化したが、埋土の状況から根による搅乱穴と思われる。遺物は出土しなかつた。



第26図 股部墳墓群第1トレンチ実測図



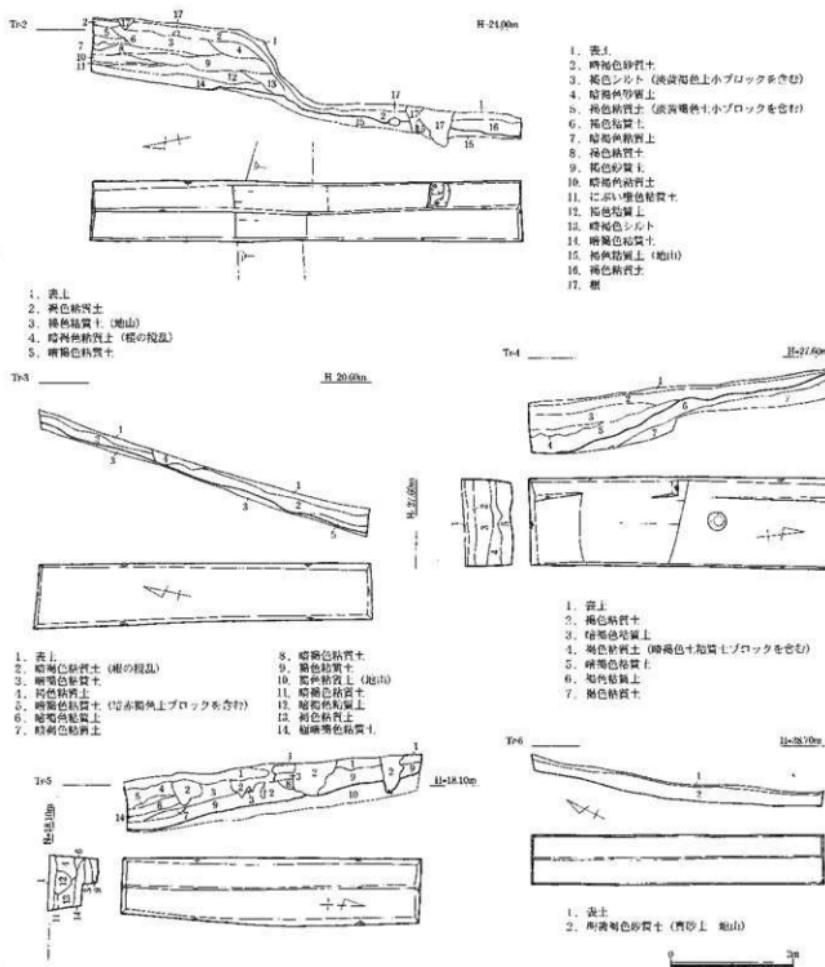
第27図 股部墳墓群第1トレンチ出土遺物実測図

⑤ 第5トレンチ (Tr-5) [第28図、図版11・12]

斜面裾部に位置し、第1トレンチの上方約25mに見られる平坦部に設定した1.1×5.0mのトレンチである。地表下30~85cmで検出した第10層の褐色粘質土が地山で、緩やかに谷側に傾斜している。第10層上層の9層も統一した均一の堆積層である。谷側に当たる第9層上層には第5、14層などのごった土の堆積が見られる。客土による畑地造成が行われているものと思われる。遺構は検出されなかった。遺物は、第4層から須恵器片が3点出土した。

⑥ 第6トレンチ (Tr-6) [第28図、図版12]

後線からわずかに下った斜面に形成された隆起状地形上に0.8×4.8mのトレンチである。地表下4~



第28図 服部古墳群第2・第3・第4・第5・第6トレンチ実測図

9cmあまりで明黄褐色砂質土(真砂土)の地山となる。盛土や地山を加工した痕跡はなく、遺構・遺物は検出されなかった。

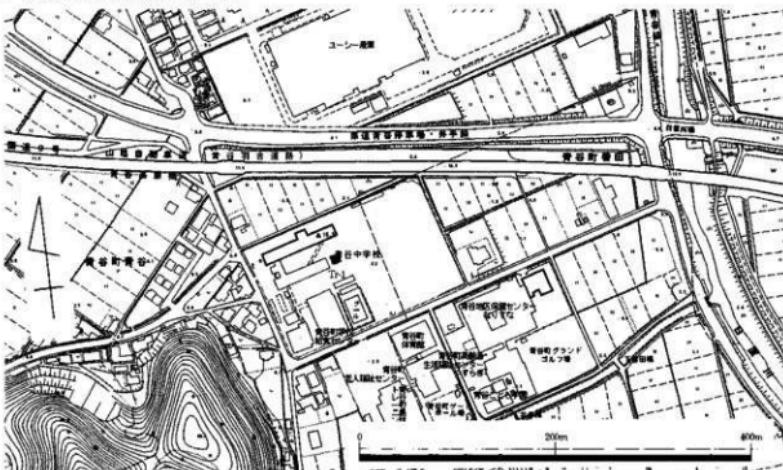
3. 小結

丘陵斜面に形成された平坦部及び緩斜面にTr-2~5、谷部の平坦部にTr-1、隆起状の地形部にTr-6の計6トレンチを設定した。調査の結果、斜面に見られる平坦部は畠地の造成に伴うものと考えられ、遺構は確認されなかった。また、谷部に設定したTr-1では字名から鐘の鋳造にかかる遺構の可能性を考えたが、関連遺構や遺物は検出されなかった。Tr-6では周溝や盛土などの古墳の存在を示す遺構、遺物は検出されず、自然の隆起状地形であることがわかった。

遺物はTr-1、5から出土した。Tr-1の遺物は主に表上下40cm前後で検出した第3層から検出された。古墳時代後期と思われる土師器の甕、須恵器の蓋杯、甕の破片が含まれているが、いずれも残存状態不良の小片である。Tr-5からは畠造成に伴う客土と考えられる表上下層から須恵器片が3点出土した。

X. 青谷上寺地遺跡

1. 遺跡の位置と環境〔第1図〕



第29図 青谷上寺地遺跡トレンチ配置図

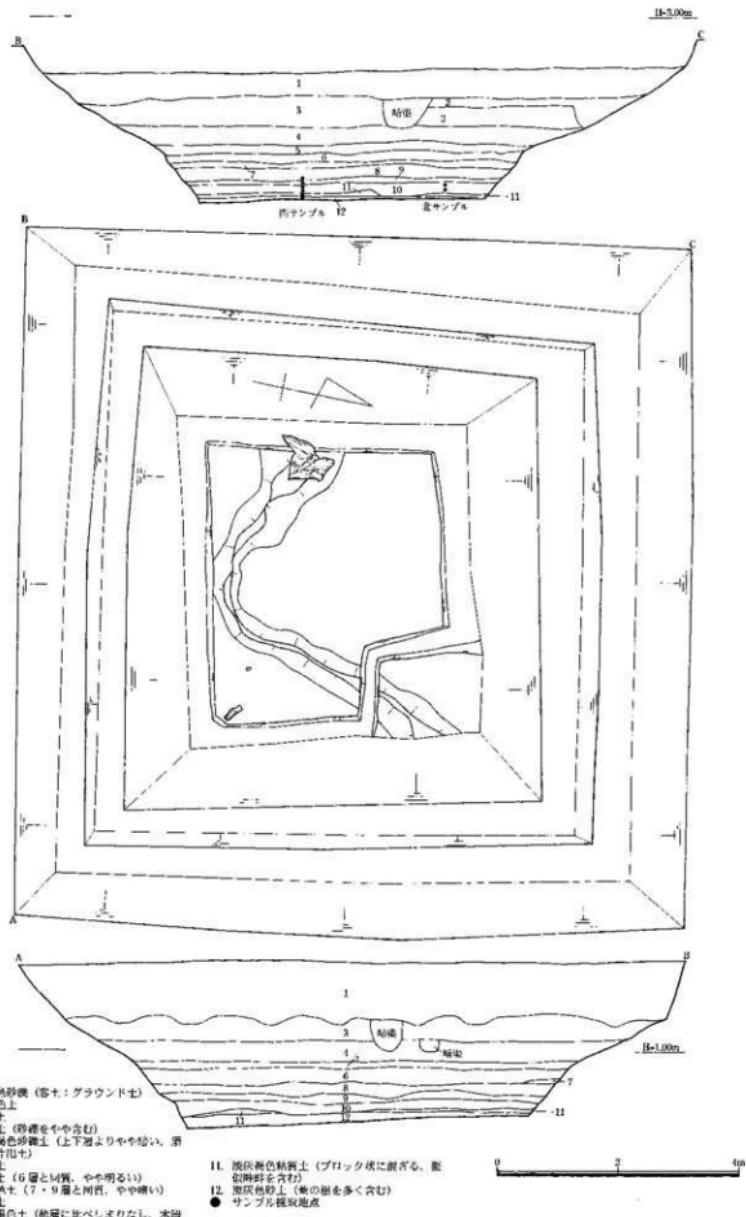
青谷上寺地遺跡は勝部川と日置川の合流点付近に位置する。1997年以降青谷町による試掘調査、鳥取県教育文化財団、鳥取県埋蔵文化財センターによる確認調査の結果縄文時代晚期から古墳時代にかけての遺跡であることが確認されている。中でも弥生時代後期の建築材をはじめとした木製品、鉄製品、ト骨などの出土数は全国的にみて多く、脳の残った頭蓋骨の出土是有名である。

2. 調査の概要〔第29図〕

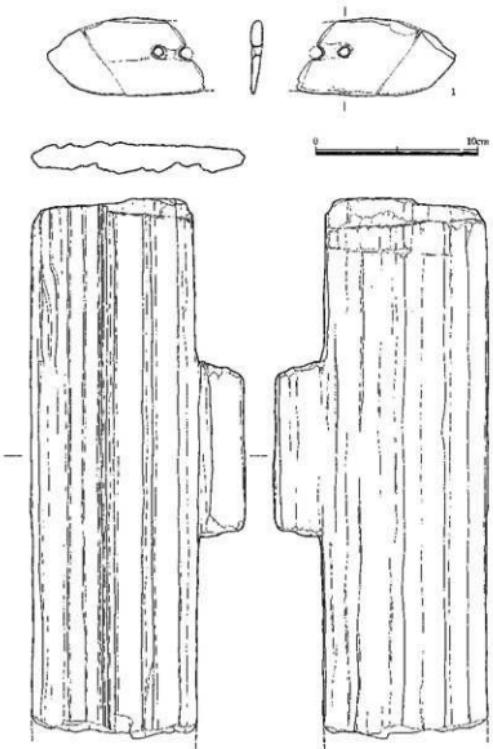
今回の試掘調査は、統合小学校の建設予定候補地の事前調査として実施したものである。対象地は青谷中学校グラウンド内に位置し、周辺の調査結果から多量の客土が予想されたため、これらについては重機を用いて除去した。また、地盤が脆弱であり掘削深度も深くなることから壁面は階段状に掘り下げ崩落防止につとめた。

① 第1トレンチ〔Tr-1〕〔第30・31図、図版12・13〕

標高2.50m前後、グラウンド内テニスコート部分に設定した11×11mのトレンチである。地表面から約1m程度はグラウンド砂の黄灰色砂礫(1層)が厚く堆積し、直下には近代と考えられる耕作層(2・



第30図 青谷上寺地跡遺跡トレンチ実測図



第31図 青谷上寺地遺跡第1トレンチ出土遺物実測図

と考えられる。また第3章で詳述するが、9～12層について藤古環境研究所に依頼し植物珪酸体分析を行った。土壤サンプルは西壁より採取し10層については2ヶ所で上下1点ずつ、計7点である。

遺物としては、5層以下、各層で流木が確認されたものの木製品として図化し得たのは10層より出土した2点のみである。(1)は木庖丁。1/3程度を欠損し、孔間には紐掛けの痕跡が残る。(2)は不明木製品。材質はスギで尖出部を持つが用途は不明、長さは現状で34cmを測る。

3. 小 結

分析の結果9・10層でイネの植物珪酸体が高密度で検出されており、稲作が行われていた可能性が考えられる。2004年に行われた同校グラウンド内調査と比較しても同様の層序を示しており下層では畦畔が検出されている。畦畔の方向も北東～南西方向と今回検出した擬似畦畔おおよそ同じであり、擬似畦畔頂部のレベル差は当調査が20cm程度高い。今回の調査により水田面の広がりが確認でき、青谷上寺地遺跡の範囲が南側へ若干拡張することとなった。

3層)がある。標高0.8m付近にある暗灰褐色砂礫土(5層)は砂礫を含み上下の層と質・色調が異なる。細片ではあるが須恵器も出土しており、周辺での調査例を勘案すると古代の層の可能性がある。以下6～9層とやや粘性を持つ褐色系の土が続き、暗灰褐色土の10層へと至る。10層は標高0.1～0.2mに位置し、木庖丁をはじめとした木製品、流木等が出土した。11層は標高0～0.1m付近に位置する淡灰褐色粘質土で、上層までとは質・色調とも大きく異なり、擬似畦畔を検出した。12層は葦の根を多量に含む自然堆積の植物層である。

遺構は、11層から東西～南北方向へとし字状に伸びる畦畔状の高まりを検出した。10cm程度の高まりであり木層が溢流堆積層であることから10層にあった水田面に伴う擬似畦畔と考えられるが、上層で畦畔は確認できなかった。擬似畦畔は西壁および北東隔壁へと続くが南壁では不明確である。この11層以外では遺構は確認できなかつた。

なお、西壁寄りにあるスギの樹根は遺構に関係しない後世の流木

第3章 付 章

鳥取市内遺跡における植物珪酸体分析

株式会社古環境研究所

1. はじめに

植物珪酸体の抽出と定量は、プラント・オパール定量分析法（藤原、1976）をもとに行った。

検鏡結果は、計数値を試料1g中の植物珪酸体個数（試料1gあたりのガラスピース個数に、計数された植物珪酸体とガラスピースの個数の比率を乗じて求める）に換算して示した。また、おもな分類群については、この値に試料の仮比重（1.0と仮定）と各植物の換算係数（機動細胞珪酸体1個あたりの植物体乾重、単位：10-5g）を乗じて、単位面積で層厚1cmあたりの植物体生産量を算出した。イネ（赤米）の換算係数は2.94（種実重は1.03）、ヨシ属（ヨシ）は6.31、ススキ属（ススキ）は1.24、メダケ節型は1.16、ネザサ節型は0.48、クマザサ属型（チシマザサ節・チマキザサ節）は0.75、ミヤコザサ節型は0.30である。

2. 分析結果

分析試料から検出された植物珪酸体は、イネ、ヨシ属、ススキ属型、タケア科（メダケ節型、ネザサ節型、クマザサ属型、ミヤコザサ節型、その他）および未分類である。これらの分類群について定量を行い、その結果を表1および図32に示した。なお、イネやムギ類の穎（糊殻）の表皮細胞に由来する植物珪酸体は、いずれの試料からも検出されなかった。

9層～12層について分析を行った結果、すべての試料よりイネ、ヨシ属、ススキ属型、メダケ節型、ネザサ節型、クマザサ属型およびミヤコザサ節型の各分類群が検出された。西壁南の9層と西壁北の10層下部でイネが高い密度である以外は、いずれも低い密度である。

3. 考 察

西壁南の9層～12層、西壁北の10層について分析を行った。イネの植物珪酸体はこれらのすべてにおいて検出されている。このうち、西壁南の9層、西壁北の10層下部では植物珪酸体密度がそれぞれ6,000個/g、4,000個/gといずれも稲作跡の可能性を判断する際の基準値とされる3,000個/gを超過している。なお、10層に関しては、西壁南では上部で2,500個/g、下部で2,000個/g、さらに西壁北では上部で2,200個/gと比較的高い密度である。こうしたことから、これらの層についてはいすれも水田耕作土であった可能性が高いと考えられる。11層と12層については、植物珪酸体密度がそれれ1,500個/g、1,000個/gと低い値であることから、ここで検出された植物珪酸体は上層あるいは近傍から混入したものと思われる。

イネ以外の分類群では、ヨシ属、ススキ属型、メダケ節型、ネザサ節型、クマザサ属型およびミヤコザサ節型が検出されているが、いずれも低密度である。このことから、調査地の9層ならびに10層では比較的管理された水田稲作が営まれていたと推定される。また、11層や12層ではイネ科植物の生育には適さない環境であったか、堆積速度が速かったことなどが想定される。

4. まとめ

鳥取市内遺跡において植物珪酸体分析を行い、稲作の可能性ならびに植生について検討した。その結果、9層と10層においてそれぞれ稲作が営まれていた可能性が高いと判断された。また、いずれも比較管理の行き届いた水田稲作であったことが想定された。なお、11層と12層ではいすれもイネ科植物の生育に適さない環境、あるいは堆積速度が速かったことなどが想定された。

参考文献 藤原宏志（1976）プラント・オパール分析法の基礎的研究(1)－数種イネ科栽培植物の珪酸体標本と定量分析法－、考古学と自然科学、9, p.15-29.

検出濃度(単位: ×10⁴kg/g)

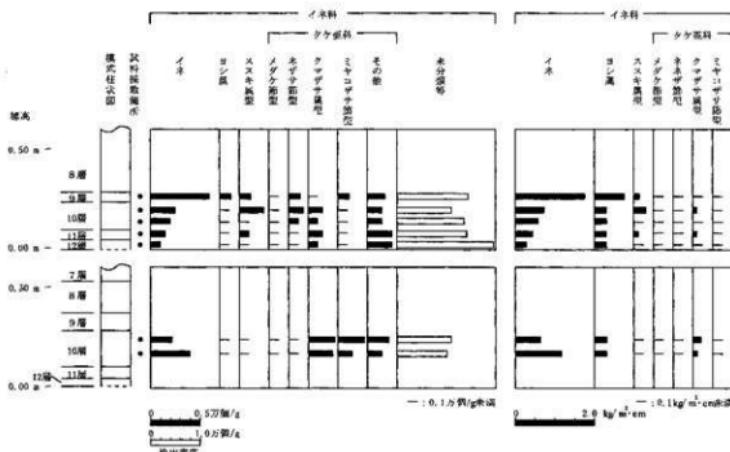
分類群(学名・学名)	層位	西日本						西日本	
		9層	10層上	10層下	11層	12層	13層	14層下	
イネ科 Gramineae (Grasses)									
イネ	<i>Oryza sativa</i> (domestic rice)	60	25	20	15	10	22	40	
ヨシ属	<i>Polygonum</i> (reed)	12	5	5	5	5	5	5	
ススキ属	<i>Miscanthus</i> type	12	25	5	10	5	5	5	
クサ科	<i>Bambusoideae</i> (Bamboo)								
メダケ属	<i>Pleiotaxis</i> sect. <i>Medake</i>	6	5	5	5	5	5	5	
ネザサ属	<i>Pleiotaxis</i> sect. <i>Nesasa</i> type	12	15	10	5	5	5	5	
タマダチ属	<i>Sasa</i> (except <i>Miyakozasa</i>) type	6	15	10	15	10	27	25	
ミヤコザサ属	<i>Sasa</i> sect. <i>Miyakozasa</i>	12	5	5	5	5	27	15	
その他	Others	18	15	15	25	25	22	15	
未分類	Unknown	141	110	136	141	196	110	101	
植物合計		282	220	211	226	208	228	216	

おもな分類群の推定生産量(単位: kg/m²·cm)

イネ	<i>Oryza sativa</i> (domestic rice)	1.76	0.73	0.39	0.44	0.29	0.64	1.18
ヨシ属	<i>Polygonum</i> (reed)	0.76	0.32	0.32	0.32	0.27	0.35	0.32
ススキ属	<i>Miscanthus</i> type	0.15	0.31	0.06	0.12	0.06	0.07	0.06
メダケ属	<i>Pleiotaxis</i> sect. <i>Medake</i>	0.07	0.06	0.06	0.06	0.06	0.06	0.06
ネザサ属	<i>Pleiotaxis</i> sect. <i>Nesasa</i> type	0.06	0.07	0.05	0.02	0.02	0.03	0.02
タマダチ属	<i>Sasa</i> (except <i>Miyakozasa</i>) type	0.05	0.11	0.09	0.11	0.09	0.21	0.19
ミヤコザサ属	<i>Sasa</i> sect. <i>Miyakozasa</i>	0.04	0.01	0.02	0.02	0.02	0.08	0.09

当駅の収穫比を1.0と仮定して算出。

表1 青谷上寺地遺跡植物珪酸体分析結果



第32図 青谷上寺地遺跡植物珪酸体分析結果

写 真 図 版



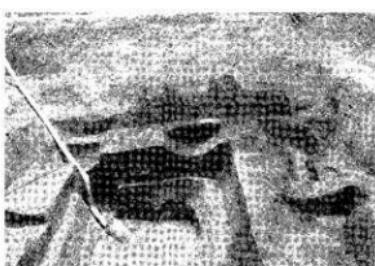
1. 岩吉遺跡調査地(Tr-1)近景(西から)



2. 岩吉遺跡第1トレンチ掘下状況1(北から)



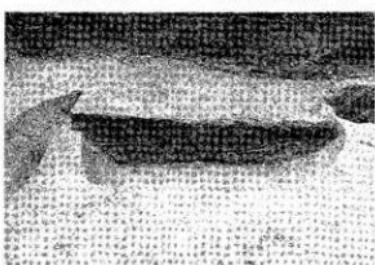
3. 岩吉遺跡第1トレンチ掘下状況2(西から)



4. 岩吉遺跡第1トレンチ南壁断面(北から)



5. 岩吉遺跡第1トレンチ東壁断面(西から)



6. 岩吉遺跡第1トレンチSK-01断面(南から)



7. 岩吉遺跡第1トレンチSK-02断面(北から)



8. 岩吉遺跡第1トレンチSK-01完掘状況(北から)

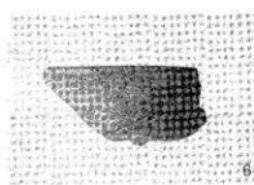
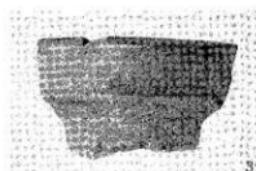
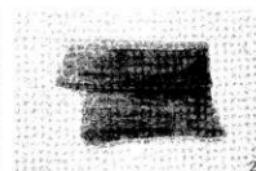
図版2



1. 岩吉遺跡第1トレンチP-01断面(西から)



2. 岩吉遺跡第1トレンチP-01完掘状況(西から)



3. 岩吉遺跡第1トレンチ出土遺物(1)



12



13



14

1. 岩吉遺跡第1トレンチ出土遺物(2)



2. 岩吉遺跡調査地(Tr-2)近景(北北東から)



3. 岩吉遺跡第2トレンチ掘下状況(東から)



4. 岩吉遺跡第2トレンチ南壁断面(北から)



5. 布勢遺跡調査地遠景(北東から)



6. 布勢遺跡第1トレンチ掘下状況1(南から)



7. 布勢遺跡第1トレンチSK-01完掘状況(南東から)

図版 4



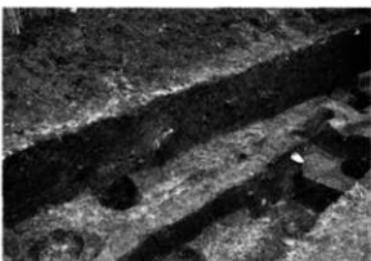
1. 布勢遺跡第1トレンチ掘下状況2(南から)



2. 布勢遺跡第1トレンチ掘下状況2(北から)



3. 布勢遺跡第1トレンチ北壁断面(南から)



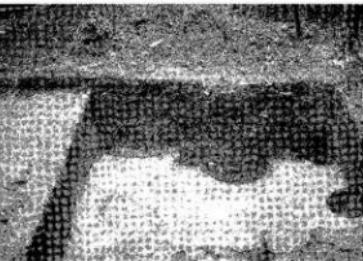
4. 布勢遺跡第1トレンチ東壁断面(北北西から)



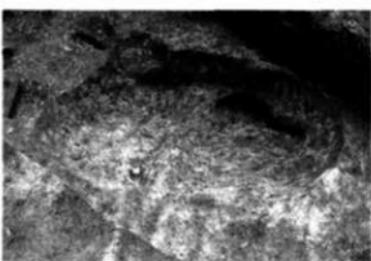
5. 布勢遺跡第2トレンチ掘下状況(南東から)



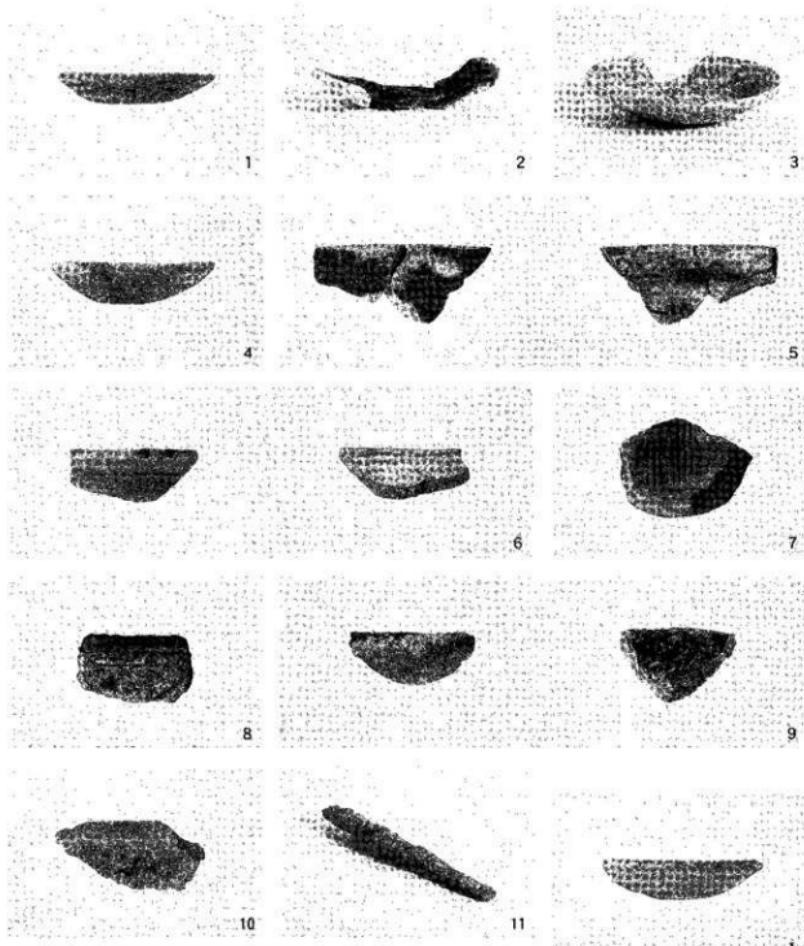
6. 布勢遺跡第2トレンチ掘下状況(北東から)



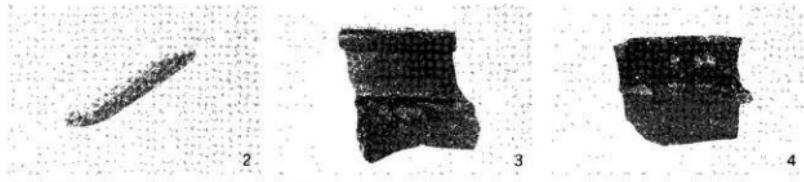
7. 布勢遺跡第2トレンチ南西壁断面(北東から)



8. 布勢遺跡第2トレンチSK-02完掘状況(東から)

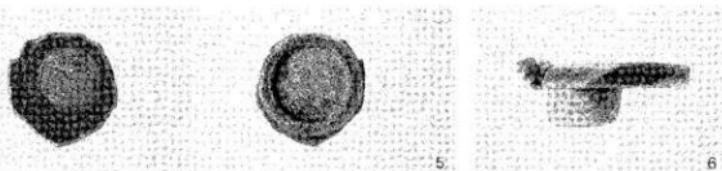


1. 布勢遺跡第1トレンチ出土遺物



2. 布勢遺跡第2トレンチ出土遺物(1)

図版 6



1. 布勢遺跡第2トレンチ出土遺物(2)



2. 山宮茶山畠遺跡調査地遠景(北から)



4. 山宮茶山畠遺跡第1トレンチ東壁断面(西から)



3. 山宮茶山畠遺跡第1トレンチ掘下状況(南から)



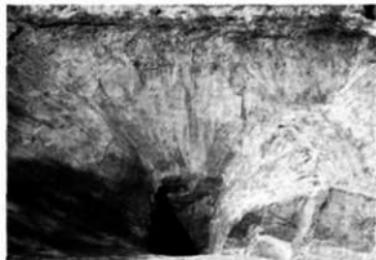
5. 山宮茶山畠遺跡第1トレンチ南壁断面(北から)



6. 青谷鎧畠本陣跡調査地遠景(南から)



7. 青谷鎧畠本陣跡第1トレンチ掘下状況(北から)



1. 青谷鎧塙本陣跡第1トレンチ北壁断面(南から)



2. 奥崎坂ノ谷出土地調査地遠景(北東から)



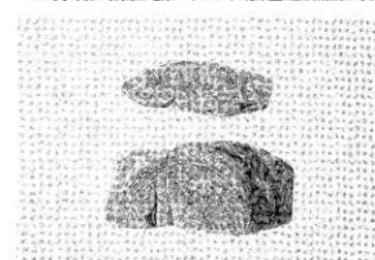
3. 奥崎坂ノ谷出土地第1トレンチ掘下状況(北西から)



4. 奥崎坂ノ谷出土地第1トレンチ北東壁断面(南西から)



5. 奥崎坂ノ谷出土地第1トレンチ南東壁断面(北から)



6. 奥崎坂ノ谷出土地第1トレンチ出土遺物



7. 沢見塚古墳調査地遠景(北西から)



8. 沢見塚古墳墳丘全景(南から)

図版 8



1. 沢見塚古墳墳丘全景(北から)



2. 沢見塚古墳第1トレンチ掘下状況(北北西から)



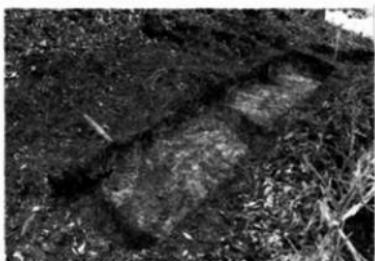
3. 沢見塚古墳第1トレンチ北東壁断面(南から)



4. 沢見塚古墳第1トレンチ遺物出土状況(南西から)



5. 沢見塚古墳第2トレンチ掘下状況(北西から)



6. 沢見塚古墳第2トレンチ北東壁断面(西北西から)



7. 沢見塚古墳第2トレンチ北西壁断面(南東から)



8. 沢見塚古墳第3トレンチ掘下状況(西から)



1. 沢見塚古墳第3トレンチ北壁断面(南西から)



2. 上光所在遺跡調査地遠景(北北東から)



3. 上光所在遺跡第1トレンチ掘下状況(北から)



4. 上光所在遺跡第1トレンチ北壁断面(南から)



5. 松原所在遺跡調査地遠景(南から)



6. 松原所在遺跡第1トレンチ掘下状況(北西から)



7. 松原所在遺跡第1トレンチ南東壁断面(北西から)

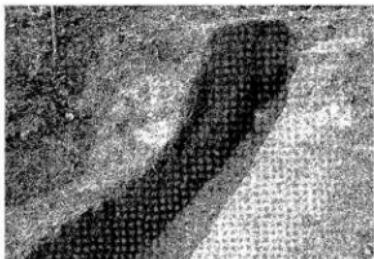


8. 松原所在遺跡第1トレンチ遺物出土状況(南東から)

図版10



1. 服部墳墓群第1トレンチ掘下状況(南から)



2. 服部墳墓群第1トレンチ西壁断面(北側)(南東から)



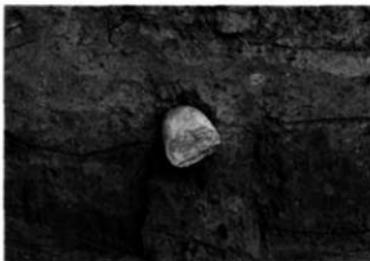
3. 服部墳墓群第1トレンチ北東側拡張部掘下状況(東から)



4. 服部墳墓群第1トレンチ北東側拡張部北壁断面(南から)



5. 服部墳墓群第1トレンチ北東側拡張部東壁断面(西から)



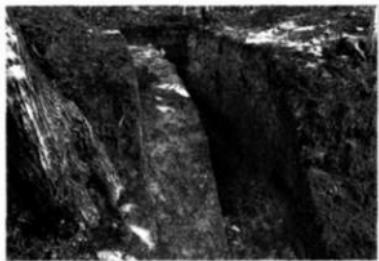
6. 服部墳墓群第1トレンチ北東側拡張部遺物出土状況(南から)



7. 服部墳墓群第1トレンチ北西側拡張部西壁断面(東から)



8. 服部墳墓群第2トレンチ掘下状況(南から)



1. 服部墳墓群第2トレンチ東壁断面(北側)(南西から)



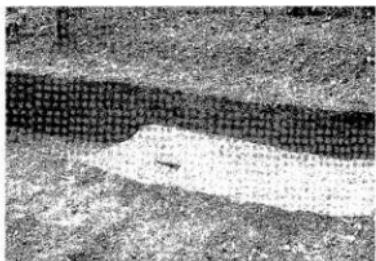
2. 服部墳墓群第3トレンチ掘下状況(北から)



3. 服部墳墓群第3トレンチ東壁断面(北西から)



4. 服部墳墓群第4トレンチ掘下状況(北から)



5. 服部墳墓群第4トレンチ西壁断面(東北東から)



6. 服部墳墓群第4トレンチ南壁断面(北から)



7. 服部墳墓群第5トレンチ掘下状況(北から)

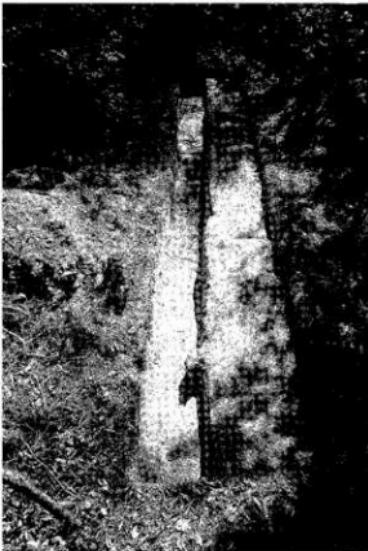


8. 服部墳墓群第5トレンチ南壁断面(北から)

図版12



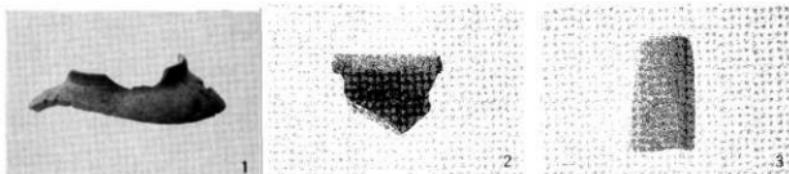
1. 股部墳墓群第5トレンチ西壁断面(北東から)



3. 股部墳墓群第6トレンチ掘下状況(北北西から)



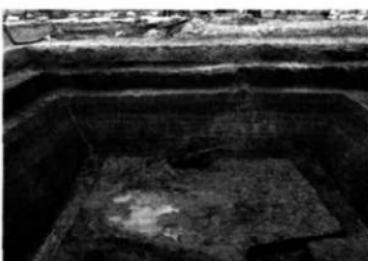
2. 股部墳墓群第6トレンチ東壁断面(北西から)



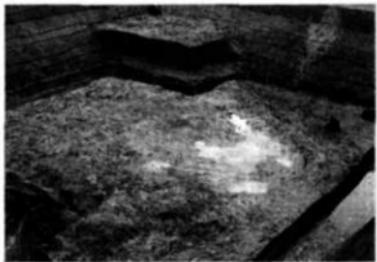
4. 股部墳墓群第1トレンチ出土遺物



5. 青谷上寺地遺跡第1トレンチ掘下状況(北から)



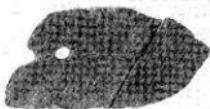
6. 青谷上寺地遺跡第1トレンチ西壁断面(東から)



1. 青谷上寺地遺跡第1トレンチ擬似鞋群検出状況(南西から)

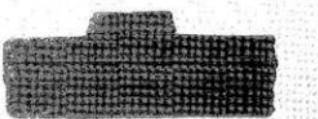


2. 青谷上寺地遺跡第1トレンチ遺物出土状況(東から)



1

3. 青谷上寺地遺跡第1トレンチ出土遺物



2

報告書抄録

ふりがな	へいせい18(2006)ねんごとつとりしないいせきはくつちょうさがいようほうこくしょ						
書名	平成18(2006)年度 烏取市内遺跡 発掘調査概要報告書						
副書名							
巻次							
シリーズ名							
シリーズ番号							
編著者名	前田 均 山田真宏 加川 崇 板田邦彦						
編集機関	鳥取市教育委員会						
所在地	〒680-8571 鳥取県鳥取市尚徳町116番地 TEL(0857)20-3367						
発行年月日	西暦2007年3月23日						
所収遺跡名	ふりがな	コード	北緯	東経	調査期間	調査面積(m ²)	調査原因
所 在 地	ふりがな	由町村 連番番号					
岩吉遺跡	いわきちしけき	31201			自2006.04.17 至2006.04.28	54.0	マンション建設 ごみ焼却施設建設
布勢遺跡	ふせしき	31201			自2006.05.08 至2006.05.21	26.9	宅地開発
山宮茶山畠遺跡	さんぐわぢやさんばたけいせき	31201			自2006.05.25 至2006.05.30	24.0	携帯電話基地局 新設
青谷難畠本陣跡	あおやなづかほんじんせき	31201			自2006.05.30 至2006.06.01	25.0	携帯電話基地局 新設
奥崎坂ノ谷出土地	おくさきざかのやよいしゆだち	31201			自2006.06.13 至2006.06.16	24.0	携帯電話基地局 新設
沢見塚古墳	さわみづかこふん	31201			自2006.06.26 至2006.07.13	9.5 (808.6)	予防治山事業
上光所在遺跡	じょうこうそくせき	31201			自2006.07.25 至2006.08.01	25.0	携帯電話基地局 新設
松原所在遺跡	まつばらそくせき				自2006.10.13	8.8	県道整備事業
服部墳墓群	ふくべふくもぐん	31201			自2006.11.06 至2006.11.22	51.2	姫路鳥取線整備 事業
青谷上寺地遺跡	あおやなづかじいせき	31201	35° 30° 43°	133° 59° 44°	自2006.06.26 至2006.08.22	121.0	統合小学校建設
所 収 遺 跡 名	種 別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項		
岩吉遺跡	集落	古墳時代 奈良・平安時代	土坑、ピット状 遺構	埴輪、高杯、鼓形腰台、瓦 杯、削頂土器、蓋杯、壺、	試掘調査として実施		
布勢遺跡	散布地	中・近世	溝状遺構、土坑 ピット	陶磁器、土師器、高杯、鐵器、埴輪	試掘調査として実施		
山宮茶山畠遺跡	集落				試掘調査として実施		
青谷難畠本陣跡	散布地		—	陶器	試掘調査として実施		
奥崎坂ノ谷出土地	散布地		—	土師器皿	試掘調査として実施		
沢見塚古墳	古墳	古墳時代	埴輪	須恵器	試掘調査及び埴丘湖 氷鑿調査として実施		
上光所在遺跡	散布地	古代、中・近世	—	土師器皿、須恵器、瓦 賣子器、陶瓶器	試掘調査として実施		
松原所在遺跡	散布地		—	木器	試掘調査として実施		
服部墳墓群	散布地	古墳時代	—	甕、蓋杯、石斧	試掘調査として実施		
青谷上寺地遺跡	集落		擬似財財	木板丁	試掘調査として実施		

平成18(2006)年度

鳥取市内遺跡発掘調査概要報告書

平成19(2007)年3月発行

編集 鳥取市教育委員会
発行 〒680-8371 鳥取県鳥取市向徳町116番地
TEL (0857) 26-3367

印刷 総合印刷出版株式会社
〒680-0022 鳥取市西町1 丁目215番地
TEL (0857) 23-0031
